

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K100010	国際関係論	大学における学び方を身につけながら、国際関係の理論及び諸問題の考察を通して、現実の国際関係を正確かつ体系的に把握する力を養うことを目標としている。歴史、理論、そして現象を関連付けながら、学問的な分析と現実の世界との関係性を考察し、多角的に国際関係を捉える視点を養うことが最終的なねらいである。	学部基礎科目として、国際関係論に関わる分野横断的な理解と基本的知識の獲得を重視している。また、国際関係の歴史とともに変化してきた理論を現象と関連付けながら、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、実証的に国際関係を考察する力を養う。さらにコメントシートや中間レポートの執筆などを通して、国際関係論について自発的に学習する態度を養う。	・国境を越えた社会の諸問題に関する国際関係論について、分野横断的に理解しつつの基本的な知識を身に付け、主要な理論を歴史的・地理的観点から理解する。 ・異なる時代・地域・社会における歴史、理論、そして現象を関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ実証的に国際関係を考察する。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に関心を持つために、国際関係に関わる報道や情報を主体的に収集し、自発的な態度を身に付ける。	0.3	0.3	0.1	0.3
K100011	国際関係論(2年生以上)	大学における学び方を身につけながら、国際関係の理論及び諸問題の考察を通して、現実の国際関係を正確かつ体系的に把握する力を養うことを目標としている。歴史、理論、そして現象を関連付けながら、学問的な分析と現実の世界との関係性を考察し、多角的に国際関係を捉える視点を養うことが最終的なねらいである。	学部基礎科目として、国際関係論に関わる分野横断的な知識の獲得を重視している。また、国際関係の歴史とともに変化してきた理論を現象と関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ実証的且つ体系的に国際関係を考察する力を養う。さらにコメントシートや中間レポートの執筆などを通して、国際関係論について自発的に学習する態度を養う。	・国境を越えた社会の諸問題に関する国際関係論についての基本的な知識を身に付け、主要な理論を歴史的・地理的観点から理解する。 ・異なる時代・地域・社会における歴史、理論、そして現象を関連付けながら、相対的な視点を持ちつつ体系的に国際関係を考察する。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に関心を持つために、国際関係に関わる報道や情報を主体的に収集し、自発的な態度を身に付ける。	0.4	0.3	0.0	0.3
K100015	地球環境政策論	地球環境政策発展の歴史や気候変動ガバナンス形成、およびこれらを理解する上で重要な諸概念について、講義を行ったうえで、文献輪読を通じて、国際/国レベルの気候政策形成における政治力学について考察する。	地球環境政策発展の歴史、及びこれらを理解する上で重要な諸概念について基礎知識を習得する。国際/国レベルの気候政策形成における政治力学について、構造的に思考、判断する。当該分野の学術論文を読み、その内容や論点をまとめて口頭発表し、議論する。地球環境政策についての知識を意欲的に吸収し、自発的に議論に参加する。	地球環境政策発展の歴史や気候変動ガバナンス形成、およびこれらを理解する上で重要な諸概念についての基礎知識を習得する。また、国際/国レベルの気候政策形成における政治力学について構造的に思考・判断する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K100020	Japan's International Relations	The aim of this course is to study Japan's international relations through English texts and materials. By analyzing Japan's foreign policies through foreign language, it is expected that students will enhance their abilities to understand the role and position of Japan in today's world.	To learn basic facts and major topics concerning Japan's International Relations. Also to nurture abilities to read academic English, to give presentation and to actively participate discussion in English.	The goal of this course is to enhance the ability to read academic English texts, to analyse major policies critically and to discuss Japan's International Relations in English.	0.1	0.3	0.3	0.3
K100037	国際英語コミュニケーション	英語を国際的に使用するために必要な知識を、言語学、言語学習、コミュニケーション、文化、歴史等の観点から学ぶ。	国際英語、言語学、言語学習、コミュニケーション、文化、歴史などに関する基礎知識を養う。	英語について様々な角度から学問的に考える態度を養う。	0.3	0.3	0.2	0.2
K100045	文化人類学	文化人類学は、自分が属する文化以外の文化を学ぶことによって、人間と文化の多様性を研究する学問です。この授業では、文化人類学の基礎を学ぶことで、異文化との接触が日常的なグローバルな時代を生きるために必要な、基本的態度を身につけます。	通文化的な社会の問題を比較・理解したうえで、他文化を尊重する態度を身につける。	異文化を、自文化の基準ではなく、その文化の立場から理解しようと努め、異文化の知識にもとづいて自文化の常識を批判し、文化の多様性を尊重する態度を身につけます。	0.3	0.3	0.1	0.3
K100053	異文化間コミュニケーション	国際社会における相互理解に寄与するためには、多様な文化の様相と異なる文化間の交流について学ばなければなりません。この授業では、このような交流の基本単位である一人の人間に焦点を当て、異文化コミュニケーションにおけるその心理と行動の特徴について解説します。	・異文化間コミュニケーションの様々な問題の背景に関する基礎的な知識を習得する。(A) ・異文化間コミュニケーションにおける問題を自分自身で分析する基礎力を養う。(C) ・問題に対する比較考察的で相対的な視点をもった対応策について自分自身で検討できる力を習得する。(B)	・異文化間コミュニケーションの様々な問題の背景に関する基礎的な知識を習得する。 ・異文化間コミュニケーションにおける問題を自分自身で分析する基礎力を養う。 ・問題に対する比較考察的で相対的な視点をもった対応策について自分自身で検討できる力を習得する。	0.3	0.3	0.0	0.4
K100061	対人コミュニケーション論	この授業では、対面の人と人とのコミュニケーションのなかから、特に表情を通した感情のコミュニケーションをテーマに話します。主に心理学の分野で行われた研究と、その方法について紹介し、説明します。	・感情コミュニケーションの特徴について、地域間の比較や相対的な視点に立ちつつ、基礎的な知識を修得する。(B) ・実験や調査の方法論の基礎について、自ら体験しつつ理解を深める。(C)	・感情コミュニケーションの特徴について、地域間の比較や相対的な視点に立ちつつ、基礎的な知識を修得する。 ・実験や調査の方法論の基礎について、自ら体験しつつ理解を深める。	0.0	0.3	0.3	0.4

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K110105	International Communication Seminar	3泊4日の集中英語会話訓練を行う。合宿中のすべてのコミュニケーションは英語で行われる。そのために、事前に5グループに分かれて、3回の事前指導を行う。合宿中は、英語会話の授業のほか、劇、ゲームなどの活動も行い、学生はいずれかの活動の責任者にならなければならない。	外国で生活し、専門的な職業に従事できるように、英語運用能力の向上を目指す。	英語で生活でき、コミュニケーションが取れるように、英語運用能力の向上を目指す。	0.2	0.2	0.2	0.4
K110106	上級英語会話	言語に関する資料をもとに発表と討論を英語で行う。	言語に関する理解を深めながら、英語によるコミュニケーション能力を高める。	言語に関して、英語で理解し、発表や討論ができるようになること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K110107	上級英語会話	This class uses current topics and themes of interest to students to encourage communication by engaging learners with interesting and authentic examples of language and culture. Listening, speaking and critical interpretation skills will be developed through active participation and practice.	The focus of this class is to produce interculturally aware active communicators by developing global perspectives, and comprehensive communication skills such as active speaking, interpretive listening and confidence in engaging in mutual exchanges of language and culture.	This is a comprehensive course in English communication and expression. The goal of the class is to develop critical thinking, listening comprehension, oral communication, interpretation and discussion skills.	0.3	0.2	0.3	0.2
K110108	Directed English Reading	一定の学問的もしくは文学的な内容を持った英語の文章の読解を行います。	二年度で履修する「学術英語講読」よりさらに難易度の高い英語文章の読解に入ります。	高度な英語読解能力を身につけること。	0.2	0.2	0.4	0.2
K110210	英語文章表現A	英語で学術的な文章を書きます。作文の課題を3~4回程度求め、添削して返却します。クラス全体と個人別のコメントをします。必要があれば、文法や文章構成の説明も行います。最後に、自分の専門分野の小論文を書く課題を出します。	様々なエッセイについて学び、専門に関わる文献に触れながら、学術的な英語の文章を論理的に書く能力を養います。	本授業の目標は、パラグラフやエッセイなどの特徴を学びながら、英語で学術的な文章（特に研究論文）を書くための基礎を養うことにあります。	0.2	0.2	0.4	0.2
K110245	英語文章表現A	Students are expected to prepare a series of writing assignments. These writings will undergo a continuous process of revision as the class develops a stronger sense of what it means to establish a point of view and to support that point of view with a style of persuasive argumentation that adheres to the standards of an academic paper.	The focus of this course is not only on constructing ideas and points of view but also expressing these ideas in the context of a persuasive rhetorical style (expository writing).	The objective of this course is to increase fluency of written expression in academic writing in the English language through expository writing. To accomplish this goal students will not only become familiar with the specific stylistic requirements of expository writing, but will participate in developing a persuasive style of writing by engaging in an ongoing process of revising their written work.	0.2	0.2	0.4	0.2
K110261	英語文章表現B	学生ひとり一人の専門分野について、学術的な論文を英語で書く方法を学びます。	学術的な英語を運用できるようにするという目標のうち、文章表現について達成することをめざします。	本授業の目標は、それぞれの研究分野に関する論文を英語で書くことをめざします。	0.2	0.3	0.3	0.2
K110262	英語文章表現B	Over the course of the semester you will be expected to write: 1) a paper of approximately 5-10 pages that includes works cited page(s) as well as citations (footnotes.)	The focus of this course is on constructing ideas as well as points of view and then expressing these ideas in the context of a persuasive rhetorical style while paying close attention to evaluating and recording those sources (print, web, interview, film, etc.) from which your information is gathered.	This class consists of a continuing examination of research methods used at the college level, as well as the writing technology involved in producing a 5-10 page research paper. Careful attention will be paid to the needs of each student and students will be asked to give presentations periodically regarding the progress of their writing and research.	0.2	0.3	0.3	0.2
K110290	英語文章表現A	Students are expected to prepare a series of writing assignments. These writings will undergo a continuous process of revision as the class develops a stronger sense of what it means to establish a point of view and to support that point of view with a style of persuasive argumentation that adheres to the standards of an academic paper.	The focus of this course is not only on constructing ideas and points of view but then expressing these ideas in the context of a persuasive rhetorical style (expository writing).	The objective of this course is to increase fluency of written expression in academic writing in the English language through expository writing. To accomplish this goal students will not only become familiar with the specific stylistic requirements of expository writing, but will participate in developing a persuasive style of writing by engaging in an ongoing process of revising their written work.	0.2	0.2	0.4	0.2
K110291	英語文章表現A	英語での会話練習や作文演習によって、自分の状況を説明したり自分の意見を述べたりといった発信のための英語を学びます。	いろいろな身近な場面で使える英語での表現を学び、それを身につけるために、口頭での練習や作文演習をします。	自己紹介や身近な事柄について語るための語彙や表現を学び、それを使うようにすることを到達目標とします。	0.2	0.2	0.4	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K110328	時事英語	総合教材として編集されたテキストを用いて、趣味、高齢化、犯罪、学生生活、スポーツ、健康、環境問題、宇宙開発などの題材を取り上げる。教材のリスニングも合わせて行う。また、補助教材として、時事英語のプリントを適宜配布し、購読する。	「世界で起きている出来事に対し、国際市民の1人としての確に英語を通して理解する。そして、時事的な問題に対する迅速で的確な理解をし、様々な設問に対する迅速な判断力を養成する。」ことを大きな教育目標、その具体化が、上記の授業の到達目標である。	英字新聞などのニュース記事を題材に、トップダウン方式のタスクを行ううちに、無理なく英語の読解力と英語での情報収集能力を養成することを目標とする。	0.3	0.3	0.1	0.3
K110328	時事英語	時事的な英文を精読し、映像を見たり、音声を開いたりしながら、基礎的な知識と読解力を身につける。	国際的な問題を理解するための基礎技能として、報道における英語の特性を学び、英語の運用能力の向上を図る。	世界で起きている出来事を英語を通じて理解できるようになること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K110330	時事英語	時事を扱った新聞やニュースを英語で理解し活用できるようにするための訓練を行う。具体的には、音読をしながら、リーディングとリスニングの訓練を行う。併せて、その訓練の成果をディスカッション、スピーキングを通じて使う練習をする。音読練習の成果を披露するプレゼンテーションの機会も設ける。	(C)、および (D) と関連している	・英語の新聞を辞書を使って読めるようにする。 ・英語のニュースの大意を把握できるようにする。	0.0	0.0	0.5	0.5
K110330	時事英語	基本的にニュースを英語で理解するために、新聞英語とテレビのニュース番組を教材として使い、その特性について学ぶ。	国際的な問題を理解するための基礎的な技能のひとつとして、新聞英語およびテレビのニュース番組における英語の特性を学び、英語の運用能力の向上を図る。	辞書を使用しながら英字新聞読めるようになること、およびテレビの英語によるニュース番組が分かるように、英語運用能力の向上を図る	0.3	0.3	0.1	0.3
K110331	時事英語	時事的な英文を精読し、基礎的な知識と読解力を身につける。	異なる文化を理解するための語学力に資する。	世界で起きている出来事を英語を通じて理解する能力を養う。	0.3	0.3	0.1	0.3
K110332	学術英語講読（歴史・地域研究領域）	この授業では、地域社会における観光開発にかんする学術英語論文の講読・和訳を通じて、英語能力の向上を図るとともに、地域社会にとつての観光開発の意味を考えます。	学術英語論文の講読・和訳を行うことによって、国際学を学ぶ上で必要とされる英語能力を養成する。	①時間がかかってもよいので、自力で英語の学術論文を読める力を身につける。 ②地域社会にとつての観光開発の意味を考える力を養う。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110333	学術英語講読（政治・経済領域）	学術英語文献・資料を輪読する。	学術英語文献・資料の講読を通じて、専門分野の文献を読む能力を養う。	学術英語分野のなかで、特に経済関連の文献・資料を読み、専門用語を正確に理解し、分析・読解する能力を養う。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110334	学術英語講読（政治・経済領域）	国際政治、国際経済を対象とした英文社説を精読する。	英文社説の精読を通じて、各国新聞社が記載する英文の論述把握力を身につけることで、国際的な視野を持った人材の養成に資する。	ダイナミックに展開する現代国際社会の動向および動静を理解し、今後の社会科学領域の諸現象を読み取る力を身につける。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110335	学術英語講読（文化・文学領域）	比較文化の視点を取り入れた歴史・芸術・文学に関する英語文献を読む。	時間軸、空間軸ともに広いパースペクティブで、歴史・芸術・文学を考察する。	高度な内容の英語文献についての読解力を身につける。	0.4	0.4	0.1	0.1
	International Career Seminar	国際ビジネスや国際協力など国際分野や、国際交流活動・観光業などでの活躍に向けて、実践的な外国語運用能力を身につけることを目的とします。また、実務英語学習を通して、英語で自分の意見を伝える表現力や異文化の中で働くために求められるコミュニケーション・スキルの向上も目指します。事前に参考文献や英語の専門用語を予習し、合宿後にレポート提出を課します。	国際キャリア教育として、「国際キャリア実習」、 「International Career Seminar」の2科目があります。	1. 国際ビジネスや国際協力・国際交流活動・観光業などにおける、実践的な英語運用能力を身につける。2. 異文化におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。	0.2	0.2	0.2	0.4
K110338	学術英語講読（国際関係・国際協力関係）	学生は毎回、テキストの訳文と課題への解答を提出します。発表の担当者はパワーポイントを用いて発表します。発表担当者によるテキストの解釈を聞きながら、全員で討論します。	(A) 地域社会の開発で直面する諸問題を理解する。(B) 地域社会の諸問題を実証的かつ合理的に考察できる。(C) 専門研究書の内容を正確に理解し、口頭で発表し、生産的な議論ができる。上記に必要な外国語に習熟する。(D) 世界の社会問題に広く関心を持ち、問題解決のために、実践的に行動できる。	1. 国際開発に必要な表現や語彙を英語で学ぶ。 2. 国際開発に必要な観点や方法を英語で学ぶ。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110339	学術英語講読（国際社会・国際交流領域）	テキストを読み進めながら、英語読解力の向上を目指すとともに、日本の歴史や社会・文化的な特徴について幅広く話し合う。	日本の歴史や社会・文化的な特徴を英語で表現し、伝える能力を養う。	日本の歴史や社会・文化的な特徴についての概念的な英語を読解できるようにする。	0.4	0.4	0.1	0.1

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K110340	学術英語講読（思想・言語領域）	William H. Brock: A Revolution in ideas. Sigmund Freud-His Life, Work and Times（音羽書房鶴見書店）を読みます。	国際学部生に求められる高度な英語読解能力を養います。	精神分析学者ジークムント・フロイトに関する入門書を英語で講読し、西洋思想において重要な位置を占める精神分析学について学ぶと同時に、学術英語読解能力の向上を目指します。	0.4	0.4	0.1	0.1
K110341	学術英語講読（コミュニケーション領域）	心理学の学術雑誌に掲載された「感情概念の日米比較」をテーマにした論文を読みます。	・専門家が書いた論文に直接触れ、実際に行われた研究や分析、その報告を読み、要点を正確に理解し、全体的にまとめることができるようになること。(C) ・学術論文の形式や体裁の基本を習得することを目指す。(C)	・専門家が書いた論文に直接触れ、実際に行われた研究や分析、その報告を読み、要点を正確に理解し、全体的にまとめることができるようになること。・言葉を翻訳することの意味について考える力を養うとともに、学術論文の形式や体裁の基本を習得することを目指す。	0.4	0.4	0.1	0.1
K111101	ドイツ語講読A	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス等）の社会や文化に関するテキストを講読しつつ、ドイツ語運用の応力を高めるとともに、人々の生活様式や思考形式について理解することを目的とします。	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏の多様な分野のテキストを講読することにより、ドイツ語能力のさらなる向上をめざします。また、ドイツ語技能検定試験の受験についても考慮します。	ある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす読解力とドイツ語で簡単な意思表示ができるようドイツ語能力を身に付けることを目標とします。また、ドイツ語技能検定試験3級合格程度の実力を身に付けることができるよう指導します。	0.3	0.2	0.3	0.2
K111209	ドイツ語講読B	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス等）の社会や文化に関するテキストを講読しつつ、ドイツ語運用の応力を高めるとともに、人々の生活様式や思考形式について理解することを目的とします。	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏の多様な分野のテキストを講読することにより、ドイツ語能力のさらなる向上をめざします。また、ドイツ語技能検定試験の受験についても考慮します。	ある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす読解力とドイツ語で簡単な意思表示ができるようドイツ語能力を身に付けることを目標とします。また、ドイツ語技能検定試験3級合格程度の実力を身に付けることができるよう指導します。	0.3	0.2	0.3	0.2
K111306	ドイツ語講読C	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス等）の社会や文化に関するテキストを講読しつつ、ドイツ語運用の応力を高めるとともに、人々の生活様式や思考形式について理解することを目的とします。	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏の多様な分野のテキストを講読することにより、ドイツ語能力のさらなる向上をめざします。また、ドイツ語技能検定試験の受験についても考慮します。	ある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす読解力とドイツ語で簡単な意思表示ができるようドイツ語能力を身に付けることを目標とします。また、ドイツ語技能検定試験3級合格程度の実力を身に付けることができるよう指導します。	0.3	0.2	0.3	0.2
K111307	ドイツ語講読D	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス等）の社会や文化に関するテキストを講読しつつ、ドイツ語運用の応力を高めるとともに、人々の生活様式や思考形式について理解することを目的とします。	ドイツ語の基礎知識を踏まえ、ドイツ語圏の多様な分野のテキストを講読することにより、ドイツ語能力のさらなる向上をめざします。また、ドイツ語技能検定試験の受験についても考慮します。	ある程度まとまりのあるドイツ語の文章を読みこなす読解力とドイツ語で簡単な意思表示ができるようドイツ語能力を身に付けることを目標とします。また、ドイツ語技能検定試験3級合格程度の実力を身に付けることができるよう指導します。	0.3	0.2	0.3	0.2
K111403	ドイツ語会話	ドイツ語の文法および読解の訓練と平行して、ドイツ人教員との日常会話や学術上の議論を通してドイツ語能力の総合的レベルアップを図ります。	ドイツ人教員との会話を通して、ドイツ語圏の生活文化、社会や伝統にふれつつドイツ語能力の総合的向上を目指します。音楽、ビデオなどの教材も取り入れ、場面に応じた実践的会話力を身に付けることを目的とします。	日常生活でよく使われるドイツ語の表現を身に付けるとともに、大学の授業における議論の方法やレトリックがある程度身に付くようドイツ語能力の向上を目指します。	0.3	0.0	0.4	0.3
K111500	ドイツ語文章表現	ドイツ人教員が、ドイツ語の簡単な文章から徐々に副文など、複雑な内容を盛り込んだ文章が作文できるような訓練を行います。	学習したドイツ語表現を実際に使い、単純な文章から複雑な内容や構造をもつドイツ語文章の作成を練習します。	ドイツ語でのコミュニケーション方法の一つとしての文章作成能力を向上させ、自分かの意見をドイツ語で書くことができるよう、ドイツ人教員による指導を行います。	0.3	0.0	0.3	0.4
K112108	フランス語講読A	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。簡単な新聞記事を読むことによってフランス語の読解力を高め、フランスの時事問題とその背景について考える授業です。	(A)1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身に付ける。(B)自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断する。(C)発表と自由課題を通して、長文読解技術、発表技術の基礎を身に付けます。(D)フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養う。	自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断するとともに、発表と自由課題を通して、長文読解技術・発表技術の基礎を身に付け、フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養います。また、1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身に付けます。	0.0	0.5	0.3	0.2
K112205	フランス語講読B	毎年出席する学生のフランス語経験、学力が異なるので、初回に顔合わせをし、希望も聞いた上で、使用テキストを決定、もしくは随時プリント配布を行います。一応、案として原語漫画、映画脚本、絵画解説、料理読本、易しい物語小説等を準備しています。	本授業は学部基礎科目（専門外国語科目）におけるフランス語講読の授業の内、Aの次に進むものとして位置づけられています。	本授業は、フランス語の基礎学力を十分に身につけた学生を対象に、演習形式で様々なフランス語の文章に触れ、読解力を養ってゆきます。	0.0	0.5	0.3	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K112302	フランス語講読C	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。簡単な新聞記事を読むことによってフランス語の読解力を高め、フランスの時事問題とその背景について考えます。	(A)1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身に付ける。(B)自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断する。(C)発表と自由課題を通して、長文読解技術、発表技術の基礎を身に付ける。(D)フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養う。	自力でフランス語の新聞記事を読解し、内容とその背景について考察・判断するとともに、発表と自由課題を通して、長文読解技術・発表技術の基礎を身に付け、フランス語文化圏の時事問題について、その地理的・歴史的背景を含めて理解しようとする態度を養います。また、1年を通して、フランス語検定試験4級ないし3級に相当するフランス語の知識を身につけます。	0.2	0.3	0.5	0.0
未定	フランス語講読D	毎年出席する学生のフランス語経験、学力が異なるので、初回に顔合わせをし、希望も聞いた上で、使用テキストを決定、もしくは随時プリント配布を行います。一応、案として原語漫画、映画脚本、絵画解説、料理読本、易しい物語小説等を準備しています。	本授業は学部基礎科目（専門外国語科目）におけるフランス語講読の授業の内、一番難易度の高い授業に位置づけられます。	本授業は、フランス語の基礎学力を十分に身につけた学生を対象に、演習形式で様々なフランス語の文章に触れ、読解力を養ってゆきます。	0.0	0.5	0.3	0.2
K112400	フランス語会話	小グループに分かれ、文法の復習を行いながら、実践的なコミュニケーション訓練を行います。	実践訓練を重視することにより、目標である『自然なフランス語の習得』の為に素地を整えます。	フランス語会話に必要な基礎知識、日常生活での様々な場面に対応できる自然なフランス語を、短期間で習得します。会話において基礎文法・基本表現等を応用できる思考力を養うとともに、言語の背景となっているフランス文化に関する幅広い豊かな知識を身につけます。	0.3	0.3	0.3	0.1
K112507	フランス語文章表現	この授業は、フランス語作文の授業です。初級の文法を復習しながら、日常的に用いられるフランス語を使って、さまざまな事柄を表現できるようにしていきます。フランス語の文の構造について、英語や日本語の文の構造との異同にも留意しながら解説します。	(A) フランス語の文の構造の理解を深め、それをもとにフランス語作文の基礎知識を身に付ける。(B) 作文の訓練を通して、フランス語、英語、日本語の文の構造をそれぞれ区別・比較できる。(C) フランス語の基礎的な作文技術を身に付ける。(D) 言語構造の比較と理解ぬきに本質的な異文化理解などありえないことを、実践的に会得する態度を養う。	フランス語の文の構造の理解を深め、それをもとにフランス語作文の基礎知識を身に付けるとともに、作文の実践訓練を通して、フランス語・英語・日本語の文の構造をそれぞれ区別・比較できるようにします。フランス語の基礎的な作文技術を身に付け、言語構造の比較と理解ぬきに本質的な異文化理解などありえないことを、実践的に会得する態度を養います。	0.5	0.3	0.2	0.0
K113104	中国語講読A	中国語の文法解説を基礎としながら、中国語の平易な文章を正確に読解する授業です。最初はピンイン、四声のついた文章を読みますが、徐々にそれをはずして、講読できるようになることを目指します。	(A) 中国の社会・文化への理解を深める。(B) 文法解説を基礎にして、他言語との文章構造の異同を理解する。(C) 外国語を音読することにより、人前で話す際の壁を取り払う。(D) 毎週自習を課すことで、自力で学習する力を身につけさせる。	中国語の主要な文型・文法事項を一通り習得した上で、やや難解な文章でも読解できるための基礎を築く。	0.2	0.2	0.3	0.3
K113201	中国語講読B	中国語講読Aを履修した中級程度の中国語学習者を対象にする。最初はやや平易な文章から読解を始めるが、やがて新聞紙面の文章、さらには歴史史料への読解へと進めていく。最後には、読解内容をもとにしたプレゼンテーションを行ってもらう。	(A) 中国の政治・社会（特に歴史と時事問題）への理解を深める。(B) 史料と時事中国語の読解を通して、中国社会の構造を理解する。(C) 史料を多面的に読解し、プレゼンテーションをしてもらうことで、外国語の情報源に基づく研究発表の練習をしてもらう。(D) 史料や時事中国語に現れる事象を各自調査することにより、中国社会への関心を強める。	それほど難解ではない新聞記事と史料を正確に読解できるようになる。外国語の情報を基にした研究発表ができるようになる。	0.2	0.2	0.3	0.3
K113309	中国語講読C	中国語講読AおよびBを履修した中級程度の中国語学習者を対象にする。新聞紙面の文章あるいは歴史史料の読解を進める。最後には、読解内容をもとにしたプレゼンテーションを行ってもらう。	(A) 中国の政治・社会（特に歴史と時事問題）への理解を深める。(B) 史料と時事中国語の読解を通して、中国社会の構造を理解する。(C) 史料を多面的に読解し、プレゼンテーションをしてもらうことで、外国語の情報源に基づく研究発表の練習をしてもらう。(D) 史料や時事中国語に現れる事象を各自調査することにより、中国社会への関心を強める。	新聞記事と史料を正確に読解できるようになる。外国語の情報を基にした研究発表ができるようになる。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に関心をもち、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K113310	中国語講読D	中級程度の、学習者を対象に、基礎的かつ規範的な文章を講読することにより、より高度な、の表現法を学習するとともに、すでに習得した、の基礎知識を活用して、中国本土にとどまらず、台湾・香港など、華人社会に対する理解を深めることを目的とします。	異なる時代・地域・文化の様相、及び社会の諸問題に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、合理的な考察を進めるために、で書かれた専門研究書等を講読し、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることにより、専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析する能力を涵養する。かかる目的を達成するために規範的な、文献を精読し、自らの中国に関する知識・理解を確認しつつ、原典を読む基礎的な能力を獲得するために設定された授業科目の中でもっとも高度な内容を含む授業である。	1. 中等教育レベルの書籍を辞書を用い内容をほぼ理解できる能力を醸成する。 2. 中国・台湾関連の情報を調べるための基礎的なツールや方法を知る。 3. 繁体字によって書かれた中等教育レベルの、の文章をほぼ問題なく読解できるようになる。 4. , の文言文に慣れる。 5. , の辞書・事典、書籍を用いて、用語の解釈ができるようになる。	0.2	0.2	0.3	0.3
K113406	中国語会話	中国語を数多く耳で聞き、また口に出して練習することが中国語表現力の向上には一番効果的です。授業中、日常会話に使う基本的な単語、文法、慣用表現などを教え、また覚えたものを実際に使えるように、一対一の会話練習を繰り返します。リスニングも毎回取り入れます。	豊かな人間性と幅広い教養を持ち、国際的に活躍する人材の育成には本授業は役に立つものと思います。特に隣国中国と共存していくのに、ここからの出発は第一歩ではないかと思われま	中国語でコミュニケーションをする時、言いたいことを中国語の構文ルールに従って正しく表現できること；知っている単語を上手に活かし、表現の幅を広げる力を持つこと、かけられた中国語をいち早く理解して、迅速に対応できること、この授業を受けることによって、以上の目標がだまかに達成できることと信じています。	0.2	0.2	0.3	0.3
K113503	中国語文章表現	如何に正しい中国語で表現するのか、一、二年次で習った基礎文法と語彙を生かすような形で中国語の表現力を高めています。辞書や文法書には書かれていない、例えば語と語との相性問題（中国人は実際こう言うのか）、物事の表現における日中両言語の相違、並びにそれを支えている二つの国の文化的な違いなどについても、折に触れて説明・解説します。より広い視野で外国語を考え楽しんでもらいます。	異なる時代・地域・文化の様相、及び社会の諸問題に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、合理的な考察を進めるために、中国語で書かれた専門研究書等を講読し、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめた上で、その内容を、中国語を用い、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うための基礎的な能力を涵養する。	作文というより、普通の句、短文を正しく書けるようになること。基礎さえしっかり出来れば、あとは表現したいことを自分で工夫して上手に書けば宜しいです。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115107	タイ語講読A	タイ語入門を履修した初級程度を受講者を対象に、小学校高学年レベルの教科書や新聞、雑誌の記事など様々な文章を読み、読解力を高める。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉で理解するための基礎学力を養成する。	中級レベルのタイ語の文章を読み、単語力を高めるとともに、単語区切り、文章のつながり、切り方などを学び、基礎的な読解力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115108	タイ語講読B	タイ語講読Aを履修した中級程度を受講者を対象にタイ語で書かれた社会科学系の文献を講読する。タイ語の特長である難解な長文への読解力を高める。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉でより深く理解するための基礎学力を養成する。	タイ語の専門書を読むために必要な単語力、読解力ならびに専門書を批判的、論理的に把握する力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115212	タイ語会話I	タイ語会話の基本表現を学ぶ。さまざまな場面の会話の教材を使い、基礎的な会話能力を向上させる。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉で理解するための基礎学力を養成する。	学習した単語、文法、表現などを積極的に運用し、タイ語による聞き取りやコミュニケーション能力の基礎を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115213	タイ語会話II	短期集中訓練等によりタイ語の実践的な会話能力を要請する。6回の事前指導に置いて日曜会話の様々な場面に使う基本単語、文法、表現などを学習・訓練する。2日間の短期集中訓練においては、基本的にタイ語のみの会話を実践する。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語を学習する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉でより深く理解するための基礎学力を養成する。	タイ語による聞き取りやコミュニケーション能力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K115301	タイ語文章表現	中級レベルの文法と単語を用い、絵本を題材として日タイ両国の文化的な背景の違いにも留意しながら、タイ語の文章を作文する。	国際学部両学科共通の専門外国語科目であり、タイ語の文章を作文する機会を提供し、タイとその文化を現地の言葉で表現するための基礎学力を養成する。	タイ語の作文を行うことにより、中級レベルの文法と単語力を定着させるとともに、タイ語の文章表現の基礎的な力を身につける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116103	朝鮮語講読A	基礎で学んだ文法を生かして、ある程度まとまった量の韓国語の文章を読みます。	初級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養う。	初級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養う。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116150	朝鮮語講読B	中級レベルの文法を生かして、ある程度まとまった量の韓国語の文章を読みます。	中級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養う。	中級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養う。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K116200	朝鮮語会話	基礎で学んだ文法を使って実践的なコミュニケーション能力の訓練を行います。	中級レベルの会話運用能力を養うと同時に韓国語と関連した知識を深める。	日常的によく使う表現から学校生活、趣味活動、人間関係、将来の夢など自己の考えを表現できる運用能力を養う。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116200	朝鮮語講読C	中級以上の文法を使って、新聞のコラムやインターネットの記事、ウェブなどの文章を読みます。	中級から高級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養います。	中級から高級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養いつつ、韓国の文化や歴史、政治、文学、時事問題などに関する専門用語をも覚える。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116201	朝鮮語講読D	卒業研究に必要な韓国語文献（研究書、学術論文、学位論文など）を読みます。	高級レベルの韓国語文献を正確に読む能力を養う。	高級レベルの韓国語文献を読みこなす読解力を養いつつ、文化や歴史、政治、文学、時事問題などに関する専門用語をも覚える。	0.2	0.2	0.3	0.3
K116324	朝鮮語文章表現	韓国語で文章を書くために必要な文法事項や作文しにくいと思われる語彙、単語結合、表現などを学びます。	中級レベルの作文運用能力を養うと同時に韓国語と関連した知識を深める。	辞書を使わず、自己紹介や趣味活動、学校生活などやさしいテーマを500字程度で書くことができるようになる。	0.2	0.2	0.3	0.3
K117100	スペイン語講読A	スペインの生活、文化に関連したテキストに加えて、雑誌記事、パンフレット、チラシ、コラム、新聞記事、インターネット記事等を用いて読解力を養成するとともに、基本語彙の増加、基本文法の復習、テキストの音読、ヒヤリング問題も取り入れた授業を行う。	・(A) 地域的に特化・深化した知識・認識を有する上で必要なスペイン語に習熟する。・(C) 文献の講読や実地調査等の際に必要なスペイン語に習熟する。・(D) 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重するために必要なコミュニケーション能力を養う。	現在のシラバスに記載なし	0.3	0.1	0.4	0.2
K117150	スペイン語講読B	スペインやラテンアメリカ諸国の伝統音楽や現代ポップス音楽を用いて、歌詞の内容を理解し正しい発音を習得するとともに、スペイン語圏の社会や文化に関する読み物の読解、基本語彙の増加と基本文法の確認、テキストの音読やヒヤリング問題も取り入れた授業を行う。	・(A) 地域的に特化・深化した知識・認識を有する上で必要なスペイン語に習熟する。・(C) 文献の講読や実地調査等の際に必要なスペイン語に習熟する。・(D) 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重するために必要なコミュニケーション能力を養う。	現在のシラバスに記載なし	0.2	0.1	0.4	0.3
K117151	スペイン語講読C	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読めるように練習します。	本演習は国際学部の専門外国語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の講読を学習したい学生を対象とします。	初級文法を復習しながら、辞書を使えばある程度文章が読めるようになることを目指します。	0.3	0.1	0.4	0.2
K117152	スペイン語講読D	スペインやラテンアメリカ諸国の伝統音楽や現代ポップス音楽を用いて、歌詞の内容を理解し正しい発音を習得するとともに、スペイン語圏の社会や文化に関する読み物の読解、基本語彙の増加と基本文法の確認、テキストの音読やヒヤリング問題も取り入れた授業を行う。	・(A) 地域的に特化・深化した知識・認識を有する上で必要なスペイン語に習熟する。・(C) 文献の講読や実地調査等の際に必要なスペイン語に習熟する。・(D) 自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重するために必要なコミュニケーション能力を養う。	現在のシラバスに記載なし	0.2	0.2	0.3	0.3
K117200	スペイン語会話	スペイン語圏への観光、留学、就職などについて、日常生活の場面に応じた会話力を養成します。	本演習は国際学部の専門外国語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の会話を学習したい学生を対象とします。	スペイン語は、文法的には奥が深いですが、日本語と同じ母音があるため、日本人にとっては他の外国語より発音が難しくありません。授業ではこのポイントを強調し、スペイン語圏への観光、留学、就職などについて、日常生活の場面に応じた会話力を養成します。	0.2	0.2	0.3	0.3
K117350	スペイン語文章表現	スペイン語圏への留学、旅行、就職などについて、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を書けるように練習します。文の構成を考慮しながら、インフォーマルとフォーマルを区別して、要求、招待、感謝、報告、お勧め、いろんな表現を伝えられるようにします。	本演習は国際学部の専門外国語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語の文章を書くの学習したい学生を対象とします。	初級文法を復習しながら、辞書を使えばある程度文章が書けるようになることを目指します。	0.2	0.2	0.3	0.3
K119050	地球市民社会論	本授業では、地球市民社会、特に地球市民社会の中でも特に重要な担い手である国際NGOについて学びます。地球市民社会の意義、役割、定義、起源と歴史、発展の流れ、文化、欧米諸国・アジア諸国・日本の地球市民社会について論じ、地球市民社会の基礎と実践を理解することを目標とします。	学部基礎科目として、欧米・アジア・日本の地球市民社会の基礎的な知識の習得を目指します。また変化している地球市民社会の理論と実践を関連づけながら、批判的な視点を持ちながら実証的な地球市民社会を検証する視点を養います。	本授業の到達目標は、地球市民社会の全体像を把握し、地球市民社会の基本的な知識を学ぶことです。	0.4	0.4	0.1	0.1

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K119051	情報処理	この授業では、「情報処理基礎」で学んだことを発展させ、社会調査をおこなうさいに必要とされる情報処理能力を身につけることを目標としている。とくに、日本の市町村にかかわる文献データ・統計データの収集・処理をととして、社会調査にかかわる情報処理能力を養成する。	以下の宇都宮大学国際学部のディプロマポリシーのうち、とくに情報科学に対応している。「得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する」	この授業では、具体的には、 ①あらゆるパソコン操作の基礎となるブライントタッチを完璧なものとする。 ②社会調査に必要な文献データ・統計データを収集する能力を身につける。 ③表計算ソフトExcelを利用し、入手した統計データを処理・加工する能力を身につける。 ④文章作成ソフトWordを利用し、収集したデータをもとにしたレポートを作成する能力を身につける。 ⑤プレゼンテーションソフトPower Pointを利用し、収集したデータをもとにしたプレゼンテーションの基礎を身につける。 これらの能力の習得を目的としている。	0.3	0.2	0.4	0.1
K119053	情報処理	勉学や卒論作成に必要な、情報検索、文書作成、データ処理、図表作成等を中心に勉強する。また、PowerPointによるプレゼンテーション技術を身につける。	国際学やそれに関わる知識やデータ、情報を能動的に獲得し、客観的に分析し、主体的に情報発信する力を養うための基礎技能・表現の養成に関連する。	国際学の勉学・研究さらに将来の社会活動において役立つ電子的情報の処理法・活用法を身につける。	0.2	0.2	0.4	0.2
K120011	国際政治論	最初に、国際政治のしくみ（理論）を一通り学ぶ。おもに現実主義、リベラリズム、グローバリズムの古典から最新の議論までを体系だてて理解する。つぎに、国際政治の基本的構成として、力関係、同盟について学習する。さらに、現代アジア、ヨーロッパの国際政治の構造について学び、最終的に成熟した秩序の可能性について考察するために、国際政治の中の法制化の問題と貧富の格差について学習する。	(A) 国際政治の理論を学ぶことで、現代世界の構造やはたらきを知る。 (B) 国際政治の理論と現実が歴史的にどのように展開し、現代にいたるかを概観することで、現代世界の理解を深める。 (C) 長文のレポートを課すことで、参考文献に依拠した実証的な議論が展開できるようにする。 (D) 映画などを利用することで、関心を広げてもらう。	おもな学派の思想を体系だてて学ぶことで、特定の考え方に偏重あるいは固執することなく、現代世界の成り立ちを理解できることを目標にする。また、理論をもとにして、具体的な事例が分析できるようになることも目標とする。	0.3	0.3	0.2	0.2
K120020	国際法	本授業では、まず国際法の歴史を学ぶことにより、その根源的性質を探ります。国際法は近代欧州社会において成立、発展し、その後欧州列強の世界進出とともに国際法の適用範囲も拡大されてきました。ここに、今日でも完全には拭いきれない国際法のイデオロギックな特徴があります。日本が明治時代に「脱亜入欧」のスローガンの下に国際法教育に熱心だったことから、それがわかります。次に、国際法の基本的な理論・概念の問題として、慣習国際法、条約、国内法との関係について学びます。これらは、国際法のまさに基本知識ですので、詳しく説明します。国際法全般をカバーするには半期の授業はあまりに短いので、後半は、国際平和の維持に関わる問題に焦点を絞ります。現代の国際社会において武力行使が正当化されるためには、あくまで国際法にのっとったものでなければなりません。国際社会を「無法地帯」にしないための国際法の営みとその限界を明らかにします。	国際法とはどのような法であり、どのように機能しているかを理解することにより、外交、国際紛争、グローバルな問題等国際社会の事象を考察、評価する際の重要な根拠を習得できます。また、国際時事問題に関連するリーガル・マインドを養うことができます。	国際社会の法である国際法は、国際紛争を解決する基準・手段として用いられ、また人権保護や地球環境保護といった人類共通の利益を追求するために使われています。また、それを利用する主体も、諸国政府、国際組織、民族団体、個人、企業、NGOなどさまざまです。国際政治、国際経済、武力紛争、人権、環境、軍縮などの国際社会の諸問題に取り組むとき、またそうした問題を分析、評価するとき、国際法は重要な根拠ともなわたります。本授業は、国際社会の現実の諸過程で使われる国際法が、どのような法であるのか、またどのように機能しているのかを、理解することをめざします。	0.3	0.3	0.2	0.2
K120038	国際経済論	国際経済に関わる事象の中で、貿易・投資、企業経営（「企業の社会的責任」の問題を含む）に関する問題を扱う。	1) 多様な側面と特徴をもつ社会の諸問題を分析的に理解する。 2) 上記諸問題の中で経済的プロセスの位置づけに関する理解を深める 3) 参考文献・資料などを通じ自発的に学習する姿勢を養う。	1) 多様な側面と特徴をもつ社会の諸問題を分析的に理解する。 2) 上記諸問題の中で経済的プロセスの位置づけに関する理解を深める 3) 参考文献・資料などを通じ自発的に学習する姿勢を養う。	0.5	0.2	0.1	0.2
K120046	国際社会論	日ごろ大量に消費しているモノに注目し、その生産・流通・消費・廃棄のプロセスを探る	身近な消費生活とグローバルなモノの移動を繋げて理解する能力の育成に関連する。また、消費という行為の問題性を自覚する知識の獲得に関連する	身近な消費生活に関心を持つ。普段何気なく消費しているモノが手元に届くまでのプロセスを知る。グローバルなモノの移動に焦点を当てながら、グローバル化の様々な側面や意味について考える力を養うとともに、自らの消費行動の問題性や課題に自覚的になる	0.2	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130017	東北アジア論	人文地理学的な視点から、東北アジアの社会文化的状況とその地域的背景を解説し、日本の近隣地域への具体的理解を促す。	「アジア比較地誌論」で扱った広域的・包括的な内容を、東北アジア地域に絞って具体的に掘り下げ、理解の深化を図る。また、高校地理歴史及び中学校社会の教員免許取得のための科目群の1つとして開講する。	1. 東北アジアの地誌的基礎の上に、いくつかの地域事象の考察を通じ、当該地域の特性と動向への理解を深める。 2. 歴史的・政治的な関心から評価の分けやすい東北アジア諸地域の状況に対し、適切な資料批判を前提として合理的に考察・判断しようとする態度を養う。 3. 理解の深化や課題の抽出に向けた統計データ・地図・景観写真等の活用について理解を深める。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130025	近現代中国論	二つの軸から中国を総体として理解することをめざす。一つは、近代（19世紀後半～20世紀前半）と現代（20世紀後半以降）を総体として理解すること、もう一つは国内事象と国際事象を総合して理解することである。そのため、授業は通史を基本にはするが、内政・外交などテーマごとに整理して学んでもらう。	(A) 中国の国内外の問題が密接に連携していることを具体的史実から理解する。 (B) 近代と現代の問題（たとえば近代化、党による統治、国家統一）が地続きであることを認識したうえで、両者の異同について理解を深める。 (C) 毎回、小レポートを課すことで、授業の内容を整理したうえで、自らの見解が論述できる訓練をする。 (D) 中国の問題を普遍性（近代化など）と特殊性（陳情制度など）から理解することで、自ら暮らす地域との異同について理解を深める。	歴史的史実に基づきながら、現代中国が抱える問題を歴史的視座（近代と現代という問題枠組み）と理論的視座（国内問題と国際問題）から体系だてて考察できることをめざす。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130033	東南アジア論	東南アジアの地勢と歴史をふまえて、現代東南アジアの社会・経済・政治の諸相と動態を論じる。講義の展開にあたっては日本との関係を意識し、また事例としてはタイを中心に上げる予定である。	国際社会学科の選択科目であり、アジア地域を深く学習し、専門的な知識を身につけ、実証的かつ合理的な思考力を養成することをめざしている。	東南アジアの歴史や社会・経済・政治に関する基本的な知識を得るとともに、それらに関する論理的な思考力・判断力を身につける。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130041	中東地域研究	中東地域に関する基本的知識を獲得する。また、中東地域を例に、地域研究の具体的な研究方法を理解する。	(A) 地域研究として、領域横断的に対象を把握することが重視される。(B) 地域研究として、地域間比較の視点が重視される。(D) 日本とは異なる中東地域への理解が重視される。	・国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。 ・異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決する方法を獲得する。	0.3	0.3	0.0	0.4
K130084	経済学概論	社会経済学（マルクス経済学）の視点から、現代の中心的な社会システムである「資本主義」の仕組み・特徴・問題点について、学習する。	国際社会学科・国際社会学科の選択科目（1年次）に位置付き、経済学の習得のために必要不可欠な、基礎理論や基礎知識の習得を目標とする。	社会経済学の基礎理論を習得するだけでなく、世の中の経済問題や社会問題について、自分の頭で、多面的、総合的に考え直す「社会科学」の発想の仕方を身につけることを目標とする。	0.2	0.3	0.1	0.4
K130092	ミクロ経済学	講義形式。		ミクロ経済学の基礎を身につけ、経済学の考え方、センスを習得する	0.4	0.3	0.0	0.3
K130106	マクロ経済学	現実の経済では、家計、企業、政府、中央銀行などの経済主体がさまざまな経済活動に携わっています。こうした経済主体による経済活動が一国の経済に及ぼす影響を分析することがマクロ経済学の課題であり、そこから有効な経済政策を導出することがマクロ経済学の役割です。経済活動と景気循環や経済成長、経済政策との因果関係を理解することがこの講義の目的です。	本講義は、経済的な知識と理解力を深めることによって、農業経済学を学ぶ基礎学力を高めるものです。	新聞等で日常的に目にする経済に関する事項、語句等に関する理解を深める。また、経済政策と経済成長との因果関係に対する理解を深める。	0.5	0.5	0.0	0.0
K130114	経済政策論	財政政策・金融政策などの経済政策が、景気や雇用・物価などの経済に与える影響を、マクロ経済学の理論的裏付けを理解した上で学ぶ。	地域社会の様々な問題を理解し考察するにあたり、基礎的な知識・素養を養成するための科目である。	・現実の経済政策、とくに財政政策および金融政策の運営についての理解力と判断力を身につけること。	0.5	0.4	0.0	0.1

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130122	財政学	財政とは、国や地方自治体などの公共部門の経済活動のことである。その規模はGDPの大きなウェイトを占めており、現代経済は財政を抜きに語れない。本講義では、日本の財政の仕組みや原理を概観しつつ、財政民主主義の視点からその課題を検討することにある。なお、講義では主に財政支出（経費論・公共投資・社会保障）を中心に扱い、租税論は簡略化する。また、公務労働を目指す学生を念頭に置き、特に地方財政に力点をおいて講義を行いたい。	経済学、政治学等の基礎社会科学の応用社会科学の位置にあり、2年生後期の必修科目に位置づけられている。	1. 財政の基本的仕組みと財政民主主義の理解 2. 財政の経済的機能の理解 3. 公共投資、社会保障政策の理解 4. 財政赤字と財政再建問題の理解 5. 地方財政の仕組みと地方分権の理解	0.3	0.3	0.1	0.3
K130130	国際金融論	金融・資本市場の諸問題や今日のグローバル化と呼ばれる現象の中で、ある意味で典型的である。本講義では、これらの問題を理解する上で、基礎的な構造を理解することに焦点を当てる。	(A) 国境を越えて活動する資本移動や変化の激しい金融・資本市場の構造について理解を深める。 (B) 事実経過だけでなく、その基礎にある経済法則や諸カテゴリーにて浮いて理解を深める。 (D) 参考文献・資料などを通じ自発的に学習する姿勢を養う。	1) 国境を越えて関連する金融・諸本市場の構造について理解を深める。 2) 国際金融に関わる諸問題について基礎的なカテゴリーに基づき考察できる。 3) 参考文献・資料の購読を通じ、専門的知識やカテゴリーについて理解を深める。	0.5	0.2	0.1	0.2
K130149	途上国経済発展論	国連を通じてミレニアム開発目標が合意されましたが、その最大の課題である「貧困」を、世界はどのように捉えているのでしょうか。本講義は、「貧困」が集中していると考えられている「発展途上国」に焦点を当て、「貧困」の定義や関連データ、さまざまな発展・開発に関する理論を学びます。	①知識・理解：発展途上国の発展に関するさまざまな理論を学習することによって、多角的に理解を促す。 ②思考・判断：発展途上国の具体的な現状を、学んだ理論を応用し、考察する。 ③技能・表現：発展途上国の発展に関して、具体的事例を調べ、分析・発表・レポート作成する力を養う。 ④関心・意欲・態度：発展途上国の人びとの現状を、さまざまな観点から理解しようとする力を養う。	・「貧困」に関する多様な概念の理解と考察ができることと、発展途上国の「貧困」に関連するデータの理解と活用ができること。 ・開発・発展に関する多様な理論とその歴史・系譜を理解できること。 ・従属論、人間開発論、内発的発展論などの開発・発展に関する理論を理解したうえで、実社会について応用できること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130203	Japan-U.S. Relations	The objective of this course is to study Japan-U.S. relations with English texts and materials. By analyzing foreign policies through foreign language, it is expected that students will enhance their abilities to understand the roles and positions of Japan and the U.S in today's world. This course will be conducted entirely in English. Students will make presentations and have discussions in English as well.	To learn basic facts and major topics concerning Japan-U.S. Relations. Also to nurture abilities to read academic English, to give presentation and to actively participates discussion in English.		0.1	0.3	0.3	0.3
K130205	アメリカの経済と社会	・戦後アメリカ経済の歴史的発展過程を対象とする ・法政治制度や社会的過程との相互作用を対象とする。	(A) アメリカ社会が形成された歴史的過程について総合的な理解をする視点を養い、またそれと経済過程の相互作用を理解する。 (B) 法政治制度と経済過程の相互作用について合理的に考察する力を養う。 (D) 参考文献・資料の購読を通じ、より広い専門的知識を獲得する。	1) アメリカ社会・経済の直面する問題を歴史的経過を踏まえながら理解する。 2) アメリカ社会・経済の変化にある背景や、構造的要因について考察できる。 3) 参考文献・資料の購読を通じ、専門的知識やカテゴリーにて理解を深める。	0.5	0.2	0.1	0.2
K130220	国際時事問題	現代世界の事象をたんに「知る」のではなく、「理解」することをめざす。まず、現代世界の成り立ちを解説することで歴史的な位置を確かめる。つぎに、アジア、ヨーロッパ、中東それぞれの地域における現代の国際問題を詳細に考察する。いずれも歴史的な視野を含める。また、おもに英字新聞の原文を資料に用いる。さらに、複数のテーマを設定して、受講生全員にディベートを行ってもらう。	(A) 二つの点から分野を横断して現代世界を考察する。ひとつは時間軸（歴史的な視野）、もう一つは地域の軸である。 (B) 英字新聞などを丁寧に読みながら、現代問題のあり方を理解する。 (C) ディベートをすることで、情報の収集、議論の構成、多様な視点を身につけてもらう。 (D) 広範な地域を対象にすることで、各地域間の連携のあり方を学ぶ。	なぜ、そのような決定・事件が生じたのかを分析できるようになる。 英字新聞から情報を得られるようになる。 ディベートの仕方を学ぶ。	0.2	0.3	0.2	0.3
K130254	国際協力論	本授業では、国際協力とは何か、取り組むべき地球規模の問題、国際協力の見方を考え、開発協力、政策提言・キャンペーン・開発教育、フェアトレードに焦点をあて、今後地球規模の深刻な問題の解決のために国際協力が何をなすべきかについて考えます。	学部専門科目として、地球規模の深刻な問題と国際協力について応用知識を習得します。国際協力の批判的視点を持ちつつ実証的かつ体系的に国際協力を学びます。	本授業の到達目標は、①地球規模の深刻な問題、②国際協力の見方・捉え方、③国際協力のアクターは何かを把握、④国際協力の形態・参加型開発、緊急援助を把握する。⑤政策提言・キャンペーン・開発教育とは何かを把握する、⑥フェアトレードとは何かを把握する、以上①から⑥までを学び、国際協力の応用編を学びます。	0.0	0.4	0.4	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の文化の相対性に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130270	国際人権法	「国際人権法」とは、国連などによってつくられた人権に関する条約や宣言、そしてそれを実施するための国際的および国内的な制度や手続の体系をいいます。本授業では、まず国際人権法の概観をした上で、その発展の歴史をたどります。第2次世界大戦後人権問題が国際関心事項として確立してゆく過程として、国連で世界人権宣言や国際人権規約といった中核的人権文書が生まれる背景・経緯とその特徴を述べます。次に、国際人権法が国内的にどのように実施されているかを、日本の裁判例を中心に説明します。日本に対する国際人権法の影響と日本社会の受けとめ方がわかるといいます。そして、国連を中心に国際人権保障システムの展開と機能を検討してゆきます。これは国際人権法の最も独自の産物です。人権条約によるシステムと国連憲章によるシステムに分けて詳しく述べます。また、そこで人権NGOが大きな役割を果たしていることを確認します。最後に、ヨーロッパ、米州、アフリカに存在する地域的人権保障システムの重要性を学び、それがアジアにおける課題を考えます。	国際人権法の役割と基礎知識・理論を学ぶことにより、世界や日本社会における人権の現状やあり方を考える上での基準を習得することができます。また、人権問題に関わるリーガル・マインドを養うことができます。	今日人権問題は、一国の国内問題にはとどまらず、国際関係の重要なテーマとなっており、その際国際人権法をふまえて議論することは不可欠です。日本も国際人権法の影響を否定なく受けており、人権条約の締結、国連機関による人権問題の指摘や勧告、国内裁判所による人権条約の適用などを通じて、日本社会における人権のあり方を変える契機となっています。本授業では、実践的に活用される国際人権法の基本的な知識と理論の全体像を学びます。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130289	憲法	憲法における人権および統治機構の両分野を取り上げる。	憲法の主たる役割である人権保障のメカニズムと、それを支える統治機構の原理を習得する。憲法学を通して、国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけると同時に、異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができるようになることをめざす。	社会で生じる様々な問題を法的論理に基づいて考えることができるようになることを目指す。あわせて、毎講義後にリアクションペーパーを書き、次の講義でフィードバックすることにより、論理的な文章の作成能力養成をも企図している。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130343	行政学	行政学の誕生、学説史、政府間関係論、政策分析、管理学といった行政学の基礎概念を体系的に把握する。	行政学の基礎知識を身につけることで、国内・国外に通用する視野を身につける。	変動する政府活動や政策の課題を把握する力を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130351	地方自治論	地方自治体が抱える諸課題、すなわち行財政改革や地方議会との関係、住民参加、自治基本条例の策定、総合計画の策定等に関して、具体的な事例を挙げながら講義を進める。また、受講生が自らテーマを設定してレポートを作成する。	地方自治体が提供する公共サービスやNPO、企業、住民との協働・連携のあり方や課題を具体的な事例に則して理解する。	地方自治の様々な諸課題を総合的な視野で捉えられるようにする。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130360	余暇政策論	新聞報道を素材にして、余暇政策領域に関する具体的な話題提供を行った上で、受講生が自らテーマを設定してレポートを作成する。	余暇政策領域が提供する様々な素材を横断的に眺める力を身につけると同時に、余暇空間を充実させるための方策を探る意欲と能力を身につける。	余暇領域に対する関心や身近な素材を拾い上げる視点を養い、さらに余暇政策領域が提供する様々な素材を横断的に眺める力を身につけると同時に、余暇空間を充実させるための方策を探る意欲と能力を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.2
K130378	民法	民法は日常生活に直結する、非常に身近な法律である。民法の基礎知識を学びながら、日常生活とどのように関わっているのか、これらの知識を用いて日々の生活において直面する問題にどのように対応したらいいのか、を考える。	(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する。 (B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。	民法の基本原則や基礎知識の習得を主な目的とするが、単に条文の内容や知識を学ぶだけでなく、民法の学習を通じて法的なものの考え方も習得する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130408	タイ都市社会論	1980年代後半以降、急激な工業化・都市化を経験し、大きく変容しつつあるタイの都市を対象とし、社会学の立場から地域社会の現状と課題を論じる。授業では、現地調査の結果をふまえながら、首都バンコクにおける地域社会開発政策と地域住民組織の展開過程とその実態を中心に取り上げたい。	国際社会学選択科目であり、アジア地域を深く学習し、専門的な知識を身につけ、実証的かつ合理的な思考力を養成することをめざしている。	タイの都市社会とりわけ地域社会の現状と課題に関する基本的な知識を得るとともに、それらに関する論理的な思考力・判断力を身につける。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130424	東アジア社会論	中国を中心とした東アジア社会における「共同体」をヨーロッパ社会と対比しながら、理論的及び歴史的に検討します。	東アジア社会の特徴を考察します。	人類社会における「共生」「共同」の役割を「共同多」から考察し、経済活動や人的結合から、地域社会の在り方を考えます。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130435	アフリカ論	皆さんのアフリカのイメージは、距離的に遠く、自分の生活との直接的な関係が分かりにくいので、少ない偏った情報から形成されているかもしれません。アフリカ大陸には多くの国々が存在し、地域によって異なる自然・社会環境の基で異なる歴史をもった様々な人々がそれぞれの生業のもとで生活しています。またアフリカ問題に関する誤解も流布しています。本授業ではその多様性・多面性の一部や現実を、アフリカから学びます。	①知識・理解 アフリカの社会・文化・自然環境・歴史に関して概説的な知識を広げるとともに、理解を深めます。 ②思考・判断 自らのアフリカに関する知識・理解を問い直し、アフリカを取り巻く環境や構造について考察します。 ③技能・表現 アフリカに関連するトピックに関して、調査し、まとめ、発表する力を養います。 ④関心・意欲・態度：アフリカの人びとに関する関心とともに、更に学びたいという意欲を喚起します。	・アフリカの地理的・文化的・社会的多様性について理解すること。 ・アフリカに関するステレオタイプが是正されること。 ・アフリカの歴史について概ね理解すること。 ・アフリカ問題とみなされる紛争に関する理解が深まること。 ・アフリカの貧困と豊かさについて理解すること。 ・アフリカに関して自ら課題を設定し、学ぶこと。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130467	ヨーロッパ思想構造論	ヨーロッパの思想と人々の思考形式とを具体的な歴史的出来事や書籍を渉猟しつつ解説します。その際、わけても近代社会の思想基盤となった18世紀啓蒙主義の世界観の表裏を考察します。	ヨーロッパと日本・東アジアとの思想や思考形式の相違はどこに存在し、なぜそのような違いが生じたのか、についてキリスト教ドグマや儒教思想を動員して理解することを目標とします。	ヨーロッパ啓蒙主義の合理主義が近代の民主主義や人権概念に反映していることのポジティブな一面と、一方その普遍主義が弱者や少数民族の価値観を否定するネガティブな一面を有していることの、理解につながることを目標とする。	0.2	0.2	0.2	0.4
K130475	日本語教育 I	この授業は、日本語教育についての「入門編」の授業で、基本的なことから（国内外の日本語教育の状況、主な指導方法、指導内容）について学びます。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一翼を担うものである。	国内外の日本語教育の状況や日本語教育に必要な基本的なことから学び、日本語教育の概要を把握し、基本的な知識を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K130491	都市計画	都市の歴史から、現況の法制度、都市問題等の、都市計画に関わる基本的な用語、概念、計画技法、整備手法を解説する	国際学部専門科目の選択科目群の一つとして、特に以下の目標への対応を重視する。 (A) 国境を越えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する地域的または分野的に特化した知識・認識を有する。 (B) 異なる時代・地域の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。	・都市計画に関する基本的な考え方、概念、用語を習得する。 ・法制度、開発・保全の側面から、都市の基本的な構造を理解する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130505	地区計画	地区レベルの計画は、我々の日常生活に直結した最小の計画単位である。本講義では、地区レベルを対象とした種々の地区の考え方、基本的な用語と概念、計画技法、整備手法等を教える。	国際学部専門科目の選択科目群の一つとして、特に以下の目標への対応を重視する。 (A) 国境を越えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する地域的または分野的に特化した知識・認識を有する。 (B) 異なる時代・地域の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。	1. 地区計画に関する基本的な考え方、概念・用語を習得する。 2. 地区の保全と整備に関する都市計画の手法と事業の進め方について習得する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130513	地域社会論 I	学生にとって、地域社会とは身近な存在ではない。とくに「田舎」・「僻地」といわれる地方社会のことは知らないことばかりであろう。学生までの地域社会とのかかわりは限定的なものであるから。本講義では、とくに「田舎」・「僻地」と呼ばれる社会とのおして、地域社会を自分にかかわりのあるものとして理解する。さらに、自然保護などの問題をおしてグローバルとローカルのかかわりを批判的に考察する。	以下のカリキュラム・ポリシーに対応している。 「国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野横断的に特化・深化した知識・認識を有する」	伝統的な地域社会とはどのようなものであったのか、地域社会の現状はどうなっているのか、なぜ今のような状態になったのか、この現状に対して地域の人々はどうのように対応しているのか、これらのことを理解したうえで、地域社会について批判的に考える力を養成する。	0.4	0.3	0.2	0.1
K130521	地域社会論 II	非正規移住労働者や外国人の子どもたちに関わる問題を主に東アジア地域に焦点を当てて論じる。	国境を越える人の移動には様々な要因が関係していることを理解する力の養成に関連する。特に、経済的グローバル化と国家の入国管理や外国人・移民政策のあり方に対して問題関心を強める。外国人との「共生」を様々な視点から考える力を養う。	東アジアにおける国際的な人の移動の現状・背景・課題を理解する。日本および日本人が外国人に対してどのように向き合ってきたのかについて歴史を概観し、基本的な知識を得る。外国人労働者問題に関して主体的かつ批判的に分析する力を養う。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130560	地域分析基礎論	「位置」「地域」等の地理学の基礎概念を手がかりに、具体的な都市や国家の変遷と今日のようにについて学ぶ。	国際社会学における選択科目で、中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための必修科目。国土や地域に関する系統地理的考察を行うための視点と方法を修得する。	・地域的観点から社会事象をとらえることができる。 ・地形図の読図を修得する。 ・生徒が理解可能な地理情報を提示するための基礎的な力を身につける。	0.2	0.5	0.0	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に関心をもち、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130564	都市地理学	現代における社会・経済活動の中心となっている都市空間を主な対象として、その形成と、発展、変容、発展の背景を地域的視点から講述するとともに、都市空間の主要な捉え方を解説する。	1) 国際学部専門科目の選択科目群の一つとして、特に以下の目標への対応を重視する。 (A) 国境を越えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する地域的または分野的に特化した知識・認識を有する。 (B) 異なる時代・地域の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 2) 中学校社会および高等学校「地理歴史」の教員免許関連科目の一つとして開講する。	都市における諸事象を時間・空間的に比較することで、分布やその偏りを理解し、その特色に基づいて場所の法則性（一般性）や個別性（特殊性）を捉える「地域的視点」を身につけることを目標とする。具体的には①都市空間の形成と発展を自然環境や社会・経済的側面から説明する視点、②都市空間を内部構造と都市圏から捉える視点を生につける。	0.3	0.4	0.2	0.1
K130572	人口地理学	おもに日本を対象としながら、さまざまな人口現象（分布、移動、増減、構造、出生、死亡、結婚など）の地域的差異とそのメカニズムの探求を目的とした人口統計の読み方とその分析の技術・理論を解説する。	1) 国際学部専門科目の選択科目群の一つとして、特に以下の目標への対応を重視する。 (A) 国境を越えた社会の諸問題を分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する地域的または分野的に特化した知識・認識を有する。 (B) 異なる時代・地域の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 2) 中学校社会および高等学校「地理歴史」の教員免許関連科目の一つとして開講する。	社会科学の基礎となる人口統計の技術と理論を修得するとともに、人口現象の地域的差異を考察するための視点と方法について理解を深める。	0.2	0.4	0.3	0.1
K130599	情報ネットワーク概論	情報化社会はコンピュータネットワークによって支えられている。この授業ではインターネットの利活用の仕方、インターネットの基礎知識や仕組みを中心に勉強していく。	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることに関連する。	コンピュータネットワークの仕組みを理解し、それらを情報の整理や、情報の共有、情報の発信に活用することを目的とする。	0.2	0.2	0.4	0.2
K130602	データベース入門	現代人は個人的な住所録をはじめとし、数多くのデータベースを利用している。この講義では、データベースソフト「Microsoft Access」を利用して、効率よくデータを管理し活用する基本的な知識を基礎から学びます。	国際学やそれに関わる知識やデータ、情報を客観的に分析する技能の養成に関連する。	データベースの基本を理解し、実用性のあるデータベースを自ら設計し管理するノウハウを身につけることを目標とする。	0.1	0.1	0.5	0.3
K130629	統計学	統計的データは世の中にあふれている。それらを無批判に受け入れるのではなく、その意味を正し目で見直すことの必要性を説こうと思う。統計学はどうしても複雑な式を扱う必要があるが、それはやめて、豊富な実例をもとに、極力数式を用いなくて本格的な統計学に迫ろうと思う。	数学とはどういう学問なのかを知ること。小中高を通して学生諸君は問題の解き方ばかりで学問としての数学を習ったことはないと思う。数学の教員になるうえで数学を知らなければならぬことは当たり前のことである。この授業はそのための授業であり、そのための題材は統計の諸概念である。	平均や分散の意味を理解すること 基本的な推定・検定ができ、その意味がわかること	0.3	0.3	0.1	0.3
K130655	社会福祉学概論	社会福祉援助のために必要な要素として社会福祉に関する知識、援助のための技術、何を大事にして援助をするのかという倫理の三つがある。この授業では、そのうち知識に焦点をあてて、社会福祉の理念、制度、歴史、社会福祉援助技術の体系、思想などを考えていく。	専門教育科目のひとつとして、国際社会で起こっている諸問題の理解を促進する基礎となるものと位置づけられる。	・社会福祉を歴史を踏まえて理解する ・諸外国の社会福祉の歴史や制度を学ぶ ・社会福祉援助技術の方法論とその背景にある対象把握の考え方を理解する ・現代の社会福祉を考える上で基本となる思想について知識を得る	0.3	0.3	0.2	0.2
K130656	現代福祉事情	社会福祉法では地域住民の参加による地域福祉の増進や個人の選択に基づくサービス利用が原則として打ち出されている。この授業では、一人ひとりが福祉を作っていく主体であり、自ら選択している主体であるという自覚を持って、社会福祉や社会保障をよく理解し、利用できるような知識や考え方を学んでいく。	専門教育科目の一つとして、国際社会で起こっている諸問題の理解を促進する基礎となるものと位置づけられる。	・日本の社会福祉の法制度や組織について把握する ・現代の社会福祉のや社会保障の問題の背景となる社会の状況について理解する ・社会福祉における国連の役割について理解する	0.3	0.3	0.2	0.2
K130657	※現代日本語 I	この授業は主に10月来日目の日本語・日本文化研修留学生や交換留学生を対象とした中級後半～上級レベルの読解を中心とした日本語の授業である	この授業は本来日本語・日本文化研修留学プログラムの一つであり、同プログラム研修生や交換留学生が日本語能力をさらに高めながら日本の文化や社会についての幅広く知識を得るための中心的な科目として位置づけられている。	この授業の目標は多岐にわたるトピックの文章を取り上げ、精読や速読をし、上級レベルの文法や語彙、表現を学ぶとともに日本の社会や文化についての知識を深めることをめざすものである。	0.2	0.3	0.2	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主眼的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的な目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130659	※現代日本語Ⅱ	日本語中上級レベルから上級レベルの留学生を対象に、日本の社会や文化に関するいくつかのトピックを取り上げ、他国との比較や時代的な変化を読み取ることを通じて、現代の日本社会・日本文化へのより深い理解と共に、日本語能力の一層の向上を図る。	留学生を対象とした科目であり、現代日本と日本語に対する理解と認識を深めることを目指す。	読み物や統計資料、調査発表等を通して、現代日本社会及び日本文化の様相を多面的に考察し、日本への関心と理解を深めることを目指す。また、授業で取り上げたトピックに関する考察について口頭及び文章で述べるようになることを目標とする。	0.2	0.3	0.2	0.3
K130660	日本語教育方法論	日本語教育の方法や教材について学び、地域社会及び国際社会において日本語教育を進めていく上で基本となる知識と技能を養う。	第二言語・外国語という視点から自ら言語文化・言語行動を捉えなおし、多文化理解を深める。	日本語の学習目的や学習レベルなどに応じた教育方法及び教材について主体的に考えることができるようになることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130661	自然地理学	自然地理学に含まれる地形・気候・陸水・土壌・植生(学)などの諸領域のうち、「水」を中心テーマとして取り上げる。気体・液体・固体と姿を変え、たえず地表面や地下あるいは対流圏を巡っている水に着目し、その循環過程の中で繰り広げられている自然現象を取り扱うとともに、人間生活と水との関わり合いや関連性にも言及する。	人文社会現象の理解にも重要な意味を持つ自然的背景について関心と理解を涵養する。また、中学校社会および高等学校地理歴史の一種免許に関する必修科目として開講する。	これまでほとんど学習してこなかった「水」に関する基本的な事項を把握・理解する。また、国内や世界各地で展開されている水を取り巻く自然環境や社会・経済的環境における諸問題を通して、水の現状を把握・理解し、今後われわれが水環境や水問題にどう対処して行くかを考える契機とする。	0.2	0.4	0.3	0.1
K130688	日本語教育Ⅱ	世界の日本語教育・学習事情、そして、外国語としての日本語の特徴を、他の言語の場合と比較しつつ学びます。また、学習者の文化・社会的・言語的背景に起因する学習上の問題点を検討・分析します。教えることに関心がある人と学習者との共同作業による教授活動の実習や相互学習などを活動の中心とします。	国際社会における言語コミュニケーションの多様性を学び、外国語を学んで使う意義を考えつつ、それ自体が国際交流である教室活動を実践します。学習者への実際の取材にもとづく報告を最終課題とします。	関連諸分野の基本的な知識や情報をもとに、(特に海外において)与えられた状況やニーズに応じた日本語教育を構成する実際的な方法を身につけます。一般言語学的方法により日本語を相対化して見る視点を養い、言語自体についての理解を深めます。	0.2	0.3	0.2	0.3
K130689	Linguistic Typology and Language Communication	人間の言語の形式面の特徴に注目することによって、コミュニケーションの在り方の多様性や、言語と文化との関係について深く理解していくための活動を行う。探究のため、言語類型論や対照言語学の方法を学び、教室内外の活動で使用。授業は全体的に英語を用いて行う。	言語学的方法を用い、個人の調査結果およびグループワークにもとづくの母語や外国語に関する発表を英語で行う。	英語による情報収集、意見交換、報告・発表、そして、質疑応答の技能を養う。	0.3	0.3	0.3	0.1
K130692	外国語特別講義Ⅲ（ロシア語）	ロシア語初級を文法、会話表現等を通じて学ぶ。前期は主に、文字と発音から移動の動詞までを学習する。	(A) ロシア語とあわせ、ロシアの文化や社会についても学ぶ。(B) 外国語を通じて、当該言語特有の思考法や、表現の広がりについて学ぶ。(C) 学んだ知識を会話練習等で実際に使用してみる。(D) ロシア語の学習を通じて、ロシア語圏の文化、社会、営みについて関心を広げる。	ロシア語の学習を通じて、ロシア語の言語世界を体験的に学ぶとともに、ロシアの文化や社会についても理解を深める。また、外国への関心を養い、ロシア語圏の文化、社会、営み全般に対する能動的な主体として成長することを旨とする。	0.3	0.2	0.3	0.2
K130693	外国語特別講義Ⅳ（ロシア語）	ロシア語初級を文法、会話表現等を通じて学ぶ。時制、体等、初級の基本事項の学習を終える。	(A) ロシア語とあわせ、ロシアの文化や社会についても学ぶ。(B) 外国語を通じて、当該言語特有の思考法や、表現の広がりについて学ぶ。(C) 学んだ知識を会話練習等で実際に使用してみる。(D) ロシア語の学習を通じて、ロシア語圏の文化、社会、営みについて関心を広げる。	ロシア語の学習を通じて、ロシア語の言語世界を体験的に学ぶとともに、ロシアの文化や社会についても理解を深める。また、外国への関心を養い、ロシア語圏の文化、社会、営み全般に対する能動的な主体として成長することを旨とする。	0.3	0.2	0.3	0.2
K130694	外国語特別講義Ⅱ（ポルトガル語）	ブラジルポルトガル語基礎会話演習とブラジル地域・文化紹介	本講義は、国際学部共通の専門教育科目で、C“国際交流コミュニケーション領域のC5外国語学習を中心として習得”に対応しています。	① 特別講義Ⅰで修得した基礎的な文法知識を生かし日常生活での基礎的なコミュニケーションができるようになること、標準的なブラジルポルトガル語を聞いて理解する能力を養うことを目標とします。 ② 南米の大国ブラジルとはどんな国か、また日本における日系ブラジル人社会についての知識や理解を深め、多文化共生に深く関わろうとする意識を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130695	外国語特別講義Ⅰ（ポルトガル語）	教員が用意する文法学習用教材やパワーポイントによる解説やそれに関わる演習問題等を通してポルトガル語の基本を習得します。また、「日本語がわからない子ども達に日本語を教える」という場面設定に基づき、日本で生活する外国人児童生徒の教育について考察します。 音楽や映像も効果的に使用して「楽しくてためになる」授業をめざします。	(A) 日本に居住する外国人の数が200万人を超え様々な分野に置いて問題が発生していることを踏まえ、言語習得を通すことよって考察する力を養う。(B) 第2外国語習得をイメージとしてとらえるのではなく言語を道具として認識し大切なことは道具を通して人と関わり合うことであることとを認識させる。(C) 第2外国語を習得する上でのハードルを考え、学習者の共通知識である英文法と比較しながら難易度の低い授業を進める。(D) 習得した言語を直接的に生かす発想ではなく言語習得により異文化に関わる可能性を各々が探れるよう導く。	(1) ポルトガル(ブラジル)語の基本を習得し、簡単な文章の読み書きができる。 (2) 異文化への興味と理解を深め、多文化共生に関わる意識を養う。 (3) 日本に在住する外国人や外国人児童生徒に関わる諸問題について考察する。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K130697	Introduction to Latin American Studies	歴史的背景を考慮しながら、人口統計を踏まえた地理的条件が、どのように現在のラテンアメリカ各国家の経済状況を形成したのかを見ていきます。	本講義は国際学部の学科共通の専門選択科目であり、ラテンアメリカの政治、経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	本講義は近代ラテンアメリカとカリブ海地域の国家の位置、人口水準、主要な経済活動、産業、輸出、国際貢献、共通性、ラテンアメリカ内における体系的な分類という地理学的な視点を提示することにより、ラテンアメリカとカリブ海地域の国家について総合的に復習します。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130698	Latin American Politics and Society	本講義は新大陸の発見、スペインによる征服から、植民地時代、独立、初期の共和制時代までを網羅し、これらの現代ラテンアメリカへの影響を考察します。	本講義は国際学部の学科共通の専門選択科目であり、ラテンアメリカの政治、経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	言語、宗教、習慣、信仰、社会的及び政治的な制度というイベリア半島の遺産の他に、スペインによる植民地支配の間に確立された重商主義のシステムは貧困と不平等、政治的権力の集中、汚職、競争の悪循環、ジェンダーと教育、制度上の欠陥、レントシーキングの蔓延といった現代ラテンアメリカ及びカリブ海地域を形成する経済的特徴の基盤となっています。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130700	現代日本社会論	日本のホームレス問題を様々な角度から検討していく	人間の営みに関する広い事象・現象に対して積極的に目を向けることに関連する。また、社会から排除されがちな人々の「生」の厳しさの背景にあるものを理解し、かれらの「生」を通じて自己の「生」や価値観を問い直す態度や視点を要請することに関連する。	ホームレスの人々の現実に触れ、「家がない」ことが様々な問題とつながっていることを理解する。ホームレスに対する「同情」、「嫌悪感」、「共感」などを率直に出し合い、人間観・社会観について議論する。下層問題には国家による切り捨て、資本による使い捨て、市民社会からの差別などが深く関わっていることに関して認識を深める。	0.2	0.3	0.3	0.2
K130701	グローバル・ガバナンス概論	現代グローバル社会における経済、政治、社会それぞれの観点から世界の格差問題や貧困問題などを事例を通して学び、問題分析方法を実際に使用して、その解決方法を探る。	本授業では、最終的に学生自らが考えるグローバル化とグローバル・ガバナンスのあり方を提示できるように、様々な事例の紹介および海外や日本の現場で活動しているNGOや援助機関の方々も招き、討論を実施する。	グローバル・ガバナンスの定義と意味を理解し、またグローバル化による地球規模での様々な問題の理解と解決策を考え提示することを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K130710	グローバル教育論	今や70億人を越える人々が暮らす地球社会は、貧困や格差、環境破壊や人権侵害、文化摩擦や地域紛争などの地球的課題（global issues）に直面しています。この授業では、こうした地球的課題の理解や解決に向けた教育活動として国内外で取り組まれてきたユネスコの国際教育や欧米のグローバル教育などを取り上げ、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討します。	この授業の目標は、国際社会学科のディプロマ・ポリシーに掲げられている4項目の中でも、特に以下の項目に関連します。(A)知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につける。(B)思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。また、本学が重視するグローバル人材の育成との関連では、「地域からの視点を持ち、複眼的思考に基づいて創造的で能動的な行動ができる人材の育成」という目的に寄与しようとするものです。	①現代社会を批判的（critical）に読み解き、地球的課題の現状やその要因に対する認識や理解を深める。②グローバル教育やその他の隣接教育（開発教育や環境教育など）の概要を理解し、日本の各種教育現場や市民活動などでの展開や応用について考察する。③公正で持続可能な地球社会の実現に向けて「教育」の果たすべき役割やその可能性について構想する。④地球的課題をテーマとするミニ教材やミニ・アクティビティを制作する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K130712	多文化共生教育	日本における外国人児童生徒に関する教育を中心的なテーマとして、諸外国における多文化教育／異文化間教育の理論や実践を参照しながら、多文化共生に向けた教育のあり方を検討する。	多文化共生教育という題材を通して、「実践的で専門的な知識を修得する」ことを目指す。	多文化社会における教育について、歴史、現状、理論的展開を理解した上で、建設的に考え、意見を述べることができるようになること。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160021	東南アジア論実習	1980年代後半以降、急激な工業化・都市化を経験し、大きく変容しつつあるタイの都市を対象とし、社会学の立場から企業や地域社会の実態調査を行なう。	国際社会学科の実習科目であり、アジア地域に関する専門性を深め、主体的かつ批判的な分析力を養成することをめざしている。資料や専門書の読解と実地調査、論文作成のための方法論を学び、論理的な思考力・表現力を身につける。	東南アジアをフィールドとして、社会調査の実践的な能力を養成する。テーマの選択、仮説の構築、分析枠組の設定など、適切な調査設計を行う力を身につける。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160030	中東地域研究演習	中東地域を例にとり、地域研究の具体的事例を先行研究から学ぶ。	(C) 専門的な文献の読解し、批判を発表と議論を通じて行うことで、専門知識を深める。 (D) 自分たちとは異なる世界の社会問題に広く関心を持ち、社会の諸問題を解決する方法を考察する。	・異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決する方法を獲得する。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160040	アジア比較地誌論演習	アジア地誌に関する文献を検索・整理するとともに、各自の関心に沿った専門文献の紹介や文献調査による課題研究を通して、国際学部専門教育科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」の講義内容に関する理解の深化と敷衍を図る。	卒業研究準備演習、卒業研究へと進む前段階として、先行する各種講義科目の学習内容をもとに、自らの研究課題の設定や既往研究の検索・整理の基礎的訓練を行う機会として位置づけられる。	1. 「アジア比較地誌論」ないし「東北アジア論」での学習内容を自分なりに敷衍させ、アジア諸地域の社会文化的多様性とその背景についてより深い理解を得る。 2. アジアにおける地域事象について、その意味や位置づけを相対的に把握できるよう、常に比較という観点からの考察・判断を重視させる。 3. 関連分野の基礎的文献を検索・入手して読み込み、内容を整理して研究発表の資料を作成するとともに、効果的でわかりやすいプレゼンテーションを行う能力を養う。 4. 自らの関心や問題意識に基づいて設定した課題に向けて、積極的に取り組むとともに、他の学生の研究発表に対しても、積極的かつ建設的に意見を述べる態度を養う。	0.3	0.3	0.2	0.2
K160060	地域社会論Ⅱ演習	文献や視聴覚教材を使いながら、問題意識、研究、論文とは何かという根本的なテーマを討論する。	文献講読や視聴覚教材の鑑賞を通じて、それらが主張している要点を的確に捉えるとともに、グループ討論を通じて理解力や発言力を高めることに関連する。鋭い問題意識をベースに行われている研究や取組に向きあい、自分自身の問題意識をより深めるための関心や意欲を育てる。	問題意識の重要性に自覚的になる。社会問題に広く関心を持つ。自分自身の問題意識の現状や課題について、整理し、表現できる力を養う。グループ討論を通じて様々な考え方や価値観に触れ、自己のものを相対化する視点を見つける。	0.1	0.3	0.3	0.3
K160064	国際関係論演習	国際関係に関連する分野の学術論文を読む作業を通して、専門的知識を深めると同時に、卒業研究の方法論を学習する。	国際関係に関する先行研究を正確に読み解き、その内容について論理的にまとめて文章化し、さらにみずから考えた論点について生産的な議論を自発的に行う能力を養成する。	・先行研究と自らの考察を区別し、比較しながら、法学的・政治学的な枠組みを使って思考、判断する。 ・国際関係論の専門書を読み、その内容をまとめて口頭発表し、議論する。 ・法的、政治的な国際問題についての情報を意欲的に収集し、自発的な学習態度を身に付ける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160070	近現代中国論演習	二つの軸から中国を総体として理解するために、専門文献の輪読（報告者と討論者を設定）と各学生の個別研究報告とを行う。原則として、一次史料を利用した研究報告に努めてもらう。	(A) 中国の国内外の問題が密接に連携していることを具体的史実から理解する。 (B) 近代と現代の問題（たとえば近代化、党による統治、国家統一）が地続きであることを認識したうえで、両者の異同について理解を深める。 (C) 専門文献の発表・討論を通して、具体的な研究対象にたいする問題意識を養い、個別研究のテーマ設定ができるように訓練する。 (D) 自らの問題意識に沿って、個別の研究テーマを設定できるように訓練する。	専門文献の内容を要領よく「まとめ」、論点の提示などを通して「討論」できるようにすることを目標とする。また、問題意識を明確にして、具体的な研究対象が選定できるようになることも目標とする。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160072	国際法演習	各自の関心のある国際問題や人権問題について個々にまたは共同して研究報告し、相互に討論し合うことにより、かかる問題についての知識と考察を深めます。	学生が自分自身の問題関心・問題意識を確認して、卒業研究準備演習や卒業研究の段階に進んでゆく橋渡しをします。	報告・討論を通じて、調査能力、説明能力、論理展開能力を養うことをめざします。また、国際問題や人権問題に対する関心とリーガル・マインドを養います。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160100	行政学演習	現在進行中に政策課題を取り上げ、現地調査を通じてヒアリング力や資料は把握の力を身につける。	取材力、アポイントメントの取り方、インタビューにおける誠意など他者との接触における礼儀を学ぶと同時に、取り上げた政策テーマに関する深い知識と鋭敏な視点を習得する。	多様な政策課題の中から、最も関心のあるテーマを自らの力で見出し、身近な素材からグローバルな事象まで、政策提案に不可欠な批判的かつ建設的視点を養成する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160102	地域社会論Ⅰ実習	国内・国外を問わず、農山漁村などの地域社会を対象とした中長期的な現地調査（フィールド・ワーク）をもとにした卒業研究を計画している学生を対象に、調査前の下準備（文献研究・調査計画など）、現地調査、データ整理と分析、報告書作成といった社会調査の一連の流れを実践的にこなす。	以下のカリキュラム・ポリシーに対応している。 「資料や専門書の分析・読解、実地調査、そして論理的な文章執筆のための方法論を学び、専門的な議論を組み立てるための、論理的な思考力を要請する」 「調査し、分析した内容を体系的にまとめ文章化し、または口頭で発表して考察内容を伝えると同時に、ほかの人々と問題を共有するための表現力を養成する」	卒業研究に向け、単独で地域調査ができるようになることを到達目標としている。	0.3	0.2	0.3	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の文化の様相に対し、比較考察的に相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160129	国際協力論実習	国際協力とは何か、世界にはどのような開発に関する諸問題があるのか、開発に従事する関係者はどのような姿勢や心構えでないといけないのか、その問題発見能力や問題解決するための行動力を身に付け、国際協力の基礎を学びます。	国際協力に関する先行研究や文献を読み、その内容を要約して、重要な論点を導き出し、みんなで議論する力を養います。アジア学院などNGOにフィールドワークを行い、グループワークで報告書を作成し、グループで口頭発表をしてもらいます。	1 どのように国際協力や開発問題を学ぶのか、専門知識や問題解決のための姿勢や心構えを学びます。 2 どのようにフィールドワークを行うのか、フィールドワークの方法を学びます。 3 どのように発表を行うのか、プレゼンテーションの方法を学びます。 4 どのように討論するのかを学びます。 5 どのように文献資料を収集するのか、資料収集の方法を学びます。	0.0	0.4	0.4	0.2
K160162	日本語教育Ⅰ 演習	この授業の目的は、この授業は講義で学んだことをふまえて、文献講読、教科書分析、カリキュラム案の作成を行う授業である。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一翼を担うものである。	文献講読、教科書分析、カリキュラム案の作成を行い、日本語教育に関する専門知識を深めることにある。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160163	日本語教育方法論演習	主に言語習得理論をふまえた日本語教育の方法を考察し、文献講読と教材作成を通して日本語教育に関する専門的知識を深める。	第二言語・外国語という視点から自ら言語文化・言語行動を捉えなおし、多文化理解を深める。	国内外で日本語教育を展開していく上での問題とその解決について客観的かつ分析的に自ら考えることができようになることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160165	日本語教育Ⅱ 演習	主として海外の日本語の教育現場で実際に起こりうる問題への言語学的・教育学の知見を適用した対応法を学びます。問題の本質への専門的見地からの接近法を学び、自分ならではの問題解決の楽しさ・達成感を知ることが期待されます。教師の指示によるディスカッションや小調査、および、模擬授業を含む教授活動のシミュレーションと分析などを行います。	留学生の受講希望者を積極的に受け入れてグループワーク、インタビュゲーム、模擬授業などの共同作業をすることによって、国際社会におけるコミュニケーション上の問題を誠実に受け止め、言語の壁を越えた相互理解に向けて工夫するセンスを磨きます。	受講者自身が持つさまざまな文化的・社会的・言語的リソースを活用しつつ、言語コミュニケーションに関する新しいアイデアを得ることを目指します。参加者ひとりひとりが、意識していなかった自己表現の特徴や自身の学習文化に気づいたり、自分のこだわりを明らかにして課題を見つけたりする、(そして、可能ならば卒業研究など将来の調査・研究につなげる)ということが、学習活動の中で起こることを期待します。	0.1	0.3	0.3	0.3
K160166	日本語教育特別演習	日本語教育の実践的な取り組みを通して、専門的な知識と技能を身につける。	「日本語教育Ⅰ」「日本語教育Ⅱ」「日本語教育方法論」で学んだ知識・技能をさらに深め、より専門的・実践的な能力を養う。	日本語教育を展開していく上での専門的な知識と技能を深めるとともに、実践的な問題解決力を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160167	移民と多文化教育演習	専門科目「移民と多文化教育」の授業で学んだ理論的内容について実践的探求を通してさらに理解を深める。	「国際化社会に柔軟に対処し問題解決に積極的に当たれる人材の養成」という国際学部教育理念に沿って、国際社会に対する理解を深めるための科目として開講する。	1. 国家、民族、社会、文化、教育等についての複眼的なものの見方や論理的思考能力を養成することを目指す。 2. 創造的かつ緻密な実践的研究能力を身につけさせる。	0.2	0.3	0.2	0.3
K160170	情報ネットワーク実習	ネットワークの構築や整備を実際に経験しながら、必要最小限のネットワーク技術をマスターしていきます。また、デジカメやスキャナー等のハードウェアを操縦し、Webページに必要なマルチメディアコンテンツを制作し、情報発信します。その上、各自が興味のあるテーマを選び、ネットワークについて深く考察してもらいます。	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることに関連する。	実習を通してネットワーク技術及びその活用能力を身に付けることを目的とします。	0.2	0.1	0.5	0.2
K160250	国際経済論演習	国際経済や企業問題について文献・資料を購読することを通じて、問題意識を涵養する。	文献・資料の購読と批判的検討を通じてより深い専門的知識を獲得する。また討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読し、より深い理解を得る。	本演習では、グローバルゼッションの下で現れている様々な問題を各自の問題関心に応じて選択し、専門的な文献・資料の読解力・分析力を養う。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160310	環境と国際協力	今日、環境問題をめぐる国際協力には、国際条約の締結や非拘束方式的の協定締結、緩やかな政策対話、民間協力、資金/技術援助など、実に多様な形態があり、これらが複雑に混ざり合って環境国際協力のスキームを形成しています。また、環境国際協力を担う行為主体(アクター)も、政府機関や国際機関、地域機構だけでなく、民間企業、科学者、NGOs、市民に至るまで、実に多様化してきています。授業では、多様化する環境をめぐる国際協力の現状を多面的に捕らえ、全体像を把握することを目的とします。	地球環境問題をめぐる国際協力の様相について、基礎知識を習得する。多様化する環境問題をめぐる国際協力の様相を、多面的に思考・判断する。講義内容をノートにまとめ、論点やポイントを把握し、問題を多面的に把握する思考力を養う。環境問題をめぐる国際協力に関する知識を意欲的に吸収し、多面的に問題を理解する思考力を養う。	多様化する環境をめぐる国際協力の現状を多面的に捕らえ、全体像を把握することを目的とします。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160315	環境と国際協力演習	環境国際協力の問題を国際政治問題として捉え、これを学術的見地から検討することを目的とします。	学術論文の輪読等を通じて、当該分野の問題を多面的・構造的に思考・判断する。学術論文の内容や論点をまとめ、口頭発表、議論する。またゼミ合宿にてDebateを行う。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する姿勢をもつ。	関連の学術書の輪読を通じて当該分野の問題を多面的・構造的に思考・判断する。学術論文の内容や論点をまとめ口頭発表、議論する。また他大学とのゼミ合宿にて、Debateを行う。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160320	国際機構論	なぜ、いかなる目的で人類は国際機構を創設したのか、という基本的な問題意識を持ちつつ、歴史的・思想的観点を取り入れながら、過去から現在にいたる「国際機構現象」を学問的に理解する。	国際機構の歴史、構造、制度、機能理論に関する基本的な知識を身に付け、それらを使って国際機構現象を実証的且つ合理的に考察する力を養う。さらに同分野の専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する能力を養成する。	・国際機構論についての基本的な知識を身につけ、主要な理論を理解する。 ・歴史的、政治的、法的な観点を組み合わせながら、国際機構の歴史と現象を考察する。 ・専門書を読み、その内容について批判的に考察し、考察内容を正確な日本語で表現する。	0.3	0.3	0.2	0.2
K160355	途上国経済発展論演習	発展途上国（主にアフリカ）の貧困と豊かさ・経済発展・格差に関して、現状及び既存の理論的説明を理解した上で、各自が興味を持つテーマについて考察します。それぞれの問題意識に基づき、各自の興味のあるテーマについて掘り下げ研究を始めるとともに、論文や資料などの収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術などについて学びます。	①知識・理解 発展途上国の発展等に関連して、自ら設定したテーマに関する基本的知識・理解を深める。 ②思考・判断 発展途上国の発展等に関連して、自らテーマを設定し、論理的に思考できる力を養う。 ③技能・表現 文献・資料収集や引用の基本的な技術を習得するとともに、文章・口頭における表現能力を養う。 ④関心・意欲・態度：自ら設定したテーマについて理解を深めることによって、自発的な学習態度を養う。	テーマ設定、論文・資料収集、研究方法、論理的思考、論文作成技術を身につけます。 1. 発展途上国の発展等に関連して、自ら設定したテーマに関する基本的知識・理解を深める。 2. 発展途上国の発展等に関連して、自らテーマを設定し、論理的に思考できる力を養う。 3. 文献・資料収集や引用の基本的な技術を修得するとともに、文章・口頭における表現能力を養う。 ・自ら設定したテーマについて理解を深めるとことにより、自発的な学習態度を養う。	0.3	0.2	0.3	0.2
K160356	地球市民社会論演習	本授業の内容は、以下の通りです。 1 地球市民社会、特に国際協力NGOへの理解を深め、発表や討論の方法、論文・レポートの書き方、資料収集方法を学びます。 2 地球市民社会、国際NGO、国際協力、グローバル・ガバナンス、地球的諸課題全般への理解を深めます。 3 国際協力NGO、国際協力機関、地城おこしの現場などを訪問し、質問項目・調査報告の作成等フィールド・スタディの手法を学びます。過去には、足尾銅山、栃木県モリヨゴ村、日本国際ボランティアセンター(JVC)、難民支援協会を訪問しました。	本授業は、専門教育科目の演習の授業として、地球市民社会の専門知識を得ることを目標とします。	本授業の到達目標は、地球市民社会に関する専門知識を学び、発表や討論の方法、論文・レポートの書き方、資料収集方法、フィールドスタディの基本を習得することを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160358	Seminar in Latin American Studies	本演習は最近50年の商品とサービス、資本、人間、思想という4つの動向からラテンアメリカ地域を分析することにより、国際的な文脈におけるラテンアメリカの問題を考察します。	本演習はラテンアメリカの経済の情勢やについて関心がある学生を対象とします。	まず、この動的な流れを捉えるために、国際貿易と資本の流れに関する基本的なミクロ経済学、比較優位、金利と為替相場のメカニズム、賃金格差などの基本的な経済学理論を学習する予定です。	0.3	0.3	0.1	0.3
K160360	グローバル・ガバナンス論演習	本授業ではグローバル・ガバナンスをより深く理解するために、貿易や社会的権利等、国境を越えて、または国という枠組みを超えて起きている様々な事象を紹介し、これからの国際社会のあり方を考えるための議論を重ねていく。また、問題分析等具体的な手法を学ぶことにより、自らの興味・問題意識を系統的に整理し発表する技術を習得する。	経済的側面、国際政治、社会ネットワークや市民社会等を含む横断的テーマであるグローバル・ガバナンスは比較的新しい言葉であり、特に国際社会におけるNGOや市民社会などの役割も注目されている。本授業では、地球規模の問題の解決策を模索、議論し、グローバル・ガバナンスのあり方を検証する。	様々な問題分析手法および発表手法を通じ、自らグローバル・ガバナンスの問題を発見・分析し、発表・説明することができるようになることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K160361	国際学英書講読	英文社説という無駄のない文章を正確に読み取る力をつけることで、国際社会や国際文化に関する諸現象を的確に把握する力と技能を習得する。	社会科学および人文科学の領域において、国際間の価値観や文化的摩擦を見据え、問題解決のための課題解決策を真剣に追求する意欲と分析の力を養成する。	英文社説で取り上げられる様々な国際社会・国際文化事象から、現代が直面する社会的・文化的な政策課題を読み解く力を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K160362	多文化共生教育演習	日本における外国人児童生徒教育の現状と課題について理解し、多文化社会において求められる教育について、日本のみならず諸外国の理論と実践も参照しながら考察する。	多文化共生教育に関する先行研究の分析を通じて、論理的思考力と課題解決能力を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> ・多文化共生教育に関する基本的知識を得る。 ・学術論文を読み、その意図するところを理解した上で、それに対する意見を述べるができる。 ・発表のために必要な文献や資料を検索、入手し、分析することができる。 ・根拠を示しながら論理立てて意見を主張することができる。 	0.2	0.3	0.3	0.2
K160363	グローバル教育論演習	今日の地球社会は、開発や環境、平和や人権、文化や福祉、資源やエネルギーなどに関わる地球規模の諸問題に直面しており、こうした諸問題を早急に解決していくことが人類共通の地球課題（global issues）とされています。この演習では、こうした地球の諸問題の理解や解決に向けた教育実践として、先進的な取り組みが見られる英国におけるグローバル教育（開発教育や市民教育などを含む）を取り上げます。そして、その理念や実践に着目しながら、オルタナティブな教育としての今後の役割や可能性について検討していきます。	この授業は、国際学部社会学科が掲げる4つのディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の項目と関連します。 (B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の社会的諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 (C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門的な文献研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表しかつ生産的な議論を行うことができる。	この演習では、以下の4点を授業の到達目標とします。 ①大陸欧州や英国で新教育運動やグローバル教育が成立してきた歴史的経緯やその理論的背景を理解すること。 ②グローバル教育に特徴的な教育理念や教育目標をはじめ、その方法論や運動論を理解すること。 ③現代社会が直面する地球規模の諸問題の解決に向けて、これからの「教育」が果たすべき役割や可能性を検討すること。	0.2	0.3	0.3	0.2
K160500	日本の政治	今日の社会問題の多くは、政治と深い関わりを持ち、それらが私たちの生活にも大きな影響を与えている。そこで本講義では、日本の政治の仕組み（制度）、主体（アクター）、プロセスに注目しながら、実際に起こっている社会・政治問題についての理解を深めていく事を目的とする。そこでは出来る限り時事的な話題や問題を事例として取り上げる。	日本政治の制度と実態を理解するとともに、他国と比較し考察するための素養をつける。	本講義の到達目標は、「教科書に出ている政治学」と「実際に起こっている政治」とをリンクさせる事によって、新聞やTVニュースで取り上げられたり、身近で起こっている社会・政治問題を自分たちの問題として理解し、考える事が出来るようにすることである。	0.4	0.2	0.1	0.3
K170000	外国語臨地演習（英語）	オーストラリアのサザンクロス大学で行われる2週間の英語研修とホームステイが中心ですが、出発前に事前指導を行い、帰国後に事後指導も行います。	グローバル人材育成の観点から大学が提供する英語研修プログラムの一つに位置づけられます。外国で生活し、仕事が行えるような英語の技能を獲得し、心的態度も涵養します。また、学生の専門領域（国際学、教育学、工学、農学）の見地から、あるいはより一般的には自然や環境などの見地から、オーストラリアと日本を比較し、現地でより深い交流をするには何が必要かも学びます。	専門性を取り入れたカリキュラムに基づいて英語の総合的スキルを高め、外国でのホームステイによる生活を通じて、英語圏の国で暮らせる力を身につけることが目標です。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K170001	外国語臨地演習（中国語）	外国語の学習においては、その外国語が日常生活で使われている地域に行き、実際にその外国語を使って生活をしてみることで、運用能力の向上にきわめて有効であることが知られています。本授業では、原則として中国語の基礎的文法及び会話などをマスターした学生を対象に、中国語が日常生活で使われている地域を3週間程度訪れ、中国語を専門的に教える教育機関において、言語・文化等に関する訓練を受けつつ、日常生活の中で中国語を使うことにより、実践的な運用能力の向上を目指すことにあります。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→現地教育機関による講義や自身の調査等を通じて、中国及び華人社会の諸問題に関する知識を体得する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→日本及び現地教育機関において教授される中国語と日常生活の中で使用される中国語との差異を通じて、中国及び華人社会の多様性やその背景についての理解を深める。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→現地における専門的な文献の収集、及び実地調査を行うための基礎的な能力を養成し、それによって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析することができるようにする。また、現地の人々とその内容について議論を行うことができるようにする。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→現地の人々とふれあう中で、言語を使用する上でのコミュニケーション上のエチケットなどを考えつつ行動する習慣を身につけさせる。また、外国で調査する際の倫理的常識や社会的諸問題について考えさせる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日常レベルの会話の運用能力を身につける。 2. 中国語を用いた中国語の講義を受講することに慣れる。 3. 中国語を用いて、現地を理解する習慣を身につける。 4. 中国語を用いたプレゼンテーション能力を身につける。 5. 伝統文化や現代社会、日本との関係等への理解を深める。 6. 現地の人々とふれあう中で、言語を使用する上での倫理的な常識やコミュニケーション上のエチケットなどを考えつつ行動する習慣を身につけさせる。 	0.3	0.2	0.2	0.3
K199010	卒業研究（磯谷 玲）	卒業研究に向けた、研究・議論を行う。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	0.2	0.1	0.4	0.3
K199030	卒業研究（今井 直）	(1) 卒論を完成させる上で必要な知識と理論を習得し、説得力のある論文とはどういうものか理解する。(2) 内容のある論文を書くために必要な展開力と持続力のある思考・判断を養う。(3) 読者にわかりやすい文章表現を養うとともに、実証的な資料をふまえた説得力のある論理を追求する。(4) 卒論を完成させたことが将来に向かっての自信となるような機会を提供する。	(1) 卒論を完成させる上で必要な知識と理論を習得し、説得力のある論文とはどういうものか理解する。(2) 内容のある論文を書くために必要な展開力と持続力のある思考・判断を養う。(3) 読者にわかりやすい文章表現を養うとともに、実証的な資料をふまえた説得力のある論理を追求する。(4) 卒論を完成させたことが将来に向かっての自信となるような機会を提供する。	(1) 卒論を完成させる上で必要な知識と理論を習得し、説得力のある論文とはどういうものか理解する。(2) 内容のある論文を書くために必要な展開力と持続力のある思考・判断を養う。(3) 読者にわかりやすい文章表現を養うとともに、実証的な資料をふまえた説得力のある論理を追求する。(4) 卒論を完成させたことが将来に向かっての自信となるような機会を提供する。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199070	卒業研究（佐々木 史郎）	国際学部専門教育科目「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」に関連して各自が設定したテーマについて、先行研究の整理と一次データの収集・整理分析を前提に、オリジナルな研究を試みさせる。	卒業研究準備演習までの成果を具体的に発展させ、国際学部での修学の集大成を行う機会として位置づけられる。	1. 自らの問題意識を具体的な研究として構築していく過程を通して、先行研究や資料の収集と適切な取り扱い、論理的・実証的な展開等の基本的態度を養う。 2. 研究論文の文体・表現や章立て構成の基本を身につけさせる。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的かつ相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199090	卒業研究（高橋 若菜）	各自の関心に応じて環境と国際協力に関連する問題についての文献調査研究を立案実施します。	社会科学的研究方法に基づいて、当該分野の研究課題を論理的に思考・判断する。当該分野の研究課題を設定し、先行研究調査・現地調査等を行い、卒業論文にまとめ発表する。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する姿勢をもつ。	社会科学的研究方法に基づいて、環境と国際協力に関連する研究課題を設定し、先行研究調査・現地調査等を行い、卒業論文にまとめ発表する。自発的学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K199100	卒業研究（田巻 松雄）	受講生は卒業研究に向けた報告をし、指導教員と他の受講生は報告に対しコメントする。	国境を越えるグローバルな社会の諸問題に対する関心を深めるとともに、適切な文献・資料・データを収集し、ふさわしい方法論を駆使しながら、設定したテーマについて鋭く分析する力を養う。また、自身の人間観や社会観を問い直していく知識や感受性の習得を目指す。	先行研究を十分に整理し、論文のオリジナリティを明確にする。テーマに関する現実を丁寧に整理しながら、その現実の背景や意味を多面的かつ論理的に分析する論文を作成する。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199130	卒業研究（中村 祐司）	テーマを対象に社会的側面や文化的（価値観など）側面を視野に入れながら、論文作成を通じて、当該テーマの背景、それが波及するところの関係システムさらには解決策を追求する。	最も関心のある政策課題を掘り下げて、解決策を追求することを通じて、国際人としてのバランスの取れた思考力と洞察力を持った人材を目指す。	長文の論文を一文一文丁寧に積み上げる知的作業を経験することによって、テーマそのもの、あるいはテーマから波及する国内・国外の社会的・文化的諸課題を把握する力を身につけると同時に、グローバル社会に柔軟に対応できる思考力を習得する。	0.2	0.3	0.2	0.3
K199140	卒業研究（倪 永茂）	IT社会や情報ネットワークに関連した研究テーマを決め、先行研究等を整理し、独自の視点や問題解決法を追求する。	論文の読解力を向上し、卒論作成の技法や、論理的思考力を見つめることを目指す。	IT社会に対する洞察を深め、問題解決に必要な思考力や表現力を習得し、卒論を作成する。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199170	卒業研究（マリー ケオマノータム）	自らの課題設定に即して、文献購読や社会調査を行い、発表・議論しつつ、卒業論文を作成する。	国際学部の必修科目であり、専門性を深め、主体的かつ批判的な分析力を養成しつつ、学術論文の作成を行う。資料や専門書の読解と実地調査、論文作成のための方法論を学び、論理的な思考力・表現力を身につけることが前提である。	社会学に関する知識を身につけ、現実の社会に対する理解を深める。社会的想像力を培い、現実社会に対する基礎的な判断力を身につけつつ、学術論文の作成を行う。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199180	卒業研究（阪本 公美子）	自ら選択した専門的テーマについて、先行研究を整理した上で、指導のもと独自の調査・論理を展開し、卒業論文を作成すること。	①知識・理解：卒業研究のために自ら設定したテーマに関して、基本的文献を読み進め、先行研究を整理する。 ②思考・判断：卒業研究のために設定したテーマに関して、既存の研究を踏まえて問題設定し、論理的に考察する。 ③技能・表現：卒業論文のための文献・資料の収集や引用の技術を徹底し、文章の論理的構成能力を習得する。 ④関心・意欲・態度：自ら設定したテーマを自発的な研究態度のもと展開する。	1. 主体的に研究テーマを定め、問題を設定すること 2. 設定したテーマ・問題に関して、文献・資料・情報を理解すること 3. 設定したテーマ・問題について先行研究にあたり、整理すること 4. 問題設定に関して、適切な研究方法を選ぶこと 5. 資料に基づいて、論理的に卒業論文を作成すること 6. 引用・参考文献など論文の論文記述形式を活用すること	0.2	0.2	0.4	0.2
K199200	卒業研究（松尾 昌樹）	卒業研究に念頭に置き、各自そのテーマに関して発表する。	(C) 専門的な文献の読解し、批判を発表と議論を通じて行うことで、専門知識を深める。(D) 自分たちとは異なる世界の社会問題に広く関心を持ち、社会の諸問題について考察し、論文にまとめる。	学士課程集大成として独自の研究を行い論文を執筆する。	0.1	0.1	0.3	0.5
K199210	卒業研究（吉田 一彦）	言語科学全般、および、外国語教育学に関するトピックを選び、調査・研究・論文執筆を行います。	専門家として自身の得意分野で情報収集・分析・報告する技能を習得する技能を身につけます。外国語によるコミュニケーション能力を高めます。	言語科学全般、および、外国語教育学に関して発見した事実と自己の主張・見解を他者と共有できる論文というかたちでしっかりと示します。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199220	卒業研究（スエヨシ アナ）	ラテンアメリカ経済、政治、社会、文化に関する様々な問題を検討します。	本演習はラテンアメリカの経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	卒業論を作成する。	0.3	0.2	0.2	0.3
K199230	卒業研究（清水 奈名子）	卒業論文の作成に関する方法論を学びながら、論文の主題、構成を自ら考え、他の学生と議論しながら、実際に執筆する作業を行う。	卒業研究の主題に関する先行研究の内容を踏まえつつ、自らの学問的関心に従って議論を構成し、論理的な文章を執筆し、その内容を口頭で発表する能力を養成する。	・先行研究を参照しながら、自らの学問的関心に従って卒業研究の議論を構成し、論理的な論文を執筆する。 ・卒業研究で考察した内容を口頭発表し、また他の学生の発表を聞いて、批判的かつ生産的な議論を行う。 ・自らの卒業研究に関わる国際問題についての学術的な情報を意欲的に収集し、自発的に学習する。	0.1	0.3	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に関心をもち、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199240	卒業研究（重田 康博）	1 卒業論文を書くための指導を行う。 2 卒業論文の発表を行う。 3 フィールドスタディを行う。	本授業は、国際学部の最終学年の卒業研究の授業として、卒業論文の書くための文献収集、調査研究を実施する。	1 問題意識を持ち、問いを設定していく力を育てる（創造力） Creativity 2 卒業論文を書くための基本的な知識を身に付ける（知識） Knowledge 3 卒業論文の方法や技術を身に付ける（技術） Skill 4 社会の現場に行って実践する（実践） Practice	0.0	0.2	0.4	0.4
K199241	卒業研究（古村 学）	農山漁村などの地域社会を対象とした現地調査（フィールド・ワーク）をもとにした卒業研究を計画している学生を対象に、卒業研究の作成指導を行う。	以下のカリキュラム・ポリシーに対応している。 「資料や専門書の分析・読解、現地調査、そして論理的な文章執筆のための方法論を学び、専門的な議論を組み立てるための、論理的な思考力を要請する」 「調査し、分析した内容を体系的にまとめ文章化し、または口頭で発表して考察内容を伝えると同時に、ほかの人々と問題を共有するための表現力を養成する」	卒業研究を作成することが目標である。	0.2	0.3	0.3	0.2
K199250	卒業研究（松村 史紀）	以下の各点について指導をする。 1. 問題意識の醸成と研究対象の設定。 2. 先行研究の批判的検討と研究方法の選定 3. 研究資料の調査、読解、分析 4. 論文の構成、執筆、プレゼンテーション	(A) 国際政治の発想に基づき、歴史史料を利用しながら緻密な実証研究を進める。 (B) 史実に対する複数の視点から複数の解釈を立てる。 (C) 英語あるいは中国語の史料を使い、歴史的分析をする。 (D) 研究対象に関する史実が、現代国際政治の基礎をどのように形作っているのかについて考察する。	1. 強い問題意識をもとに、研究対象を選び、先行研究を批判的に検討。 2. 史料の読解、史実実証の方法を身に付ける。 3. 一つの学術論文を論理的に構成し、執筆できる能力を身に付ける。 4. 自身の研究内容を簡潔に伝える能力を身に付ける。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199260	卒業研究（成 傑）	卒業論文研究と作成に関する指導を行なう。	国際社会に対する理解を深めるための科目として開講する	独自性や学術性を備えた学術的価値の高い内容を持つ卒業論文の完成	0.2	0.3	0.2	0.3
K199290	卒業研究（立花 有希）	卒業研究準備演習で設定したテーマに基づき、資料収集、分析、考察をさらに進めていく。その過程を報告し合うことによって、方向性を修正したり、新たな視点を獲得したりする機会を得ることを図る。	卒業研究のテーマに関する知識・認識を先行研究等から獲得し、文献講読を通じて、実証的かつ合理的に考察することを学ぶ。演習内での発表やレポートの作成を通じて、文献や資料を適切に用いて分析し、論理的に考察する方法を習得し、問題の解決に自らが貢献する具体像を用意する。	自身の興味・関心に基づいて研究テーマを設定し、その考察の結果を学術的な形式で表現する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K199500	卒業研究準備演習（田巻松雄）	卒業研究に向けた準備および討議	論文執筆に不可欠な問題意識について基礎的な知識を獲得するとともに、各自の問題意識をより深めていくことに関連する。優れた研究書を購読しながら、研究とはどうあるべきかについて理解を深めるとともに、論文の書き方に関する方法論を学ぶことに関連する。	優れた研究書を購読して知見を深めるとともに、研究の意義や重要性について理解を深める。論文執筆の方法論について基礎的な知識を身に付ける。各自の問題意識を深める。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199501	卒業研究準備演習（佐々木史郎）	国際学部専門教育科目の「アジア比較地誌論」または「東北アジア論」に関連したテーマで卒業研究を行おうとする者を対象に、卒業研究に向けた課題設定、先行研究の整理、研究方法の検討、研究計画の立案と予察調査などを実施させる。	卒業研究に先行する準備過程の演習。	各自の関心に沿った研究課題について、先行研究の検索・整理、具体的な研究計画の立案、予備調査を実施し、速やかに卒業研究に移行できる段階に到達することを目標とする。	0.1	0.3	0.4	0.2
K199502	卒業研究準備演習（マリーケオマノータム）	自らの課題設定に即して、文献購読や社会調査を行い、発表し、議論する。	国際学部の必修科目であり、卒業研究を行うための準備として、専門性を深め、主体的かつ批判的な分析力を養成することをめざしている。資料や専門書の読解と現地調査、論文作成のための方法論を学び、論理的な思考力・表現力を身に付ける。	社会学に関する基礎的な知識を身につけ、現実の社会に対する理解を深める。社会的想像力の素養を培い、現実社会に対する基礎的な判断力を身に付ける。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199503	卒業研究準備演習（高橋若菜）	環境と国際協力に関連する卒業論文を執筆していくための準備を行います。 具体的には、前半は、環境と国際協力に関連する文献や、論文執筆の方法論に関する文献を輪読します。後半は、受講生は、各自設定した卒業論文テーマに沿って調査研究を進め、授業で発表を行います。	社会科学的研究設計の方法について基礎的な知識を習得する。社会科学的研究設計の方法を用いて、課題設定を行い、結論を導き出すための論理的思考力を養う。当該分野のミニ・プロジェクトを設定し、先行研究調査・現地調査を行い、その結果をまとめて発表する。自発的な学習とゼミへの積極参加を通じて、問題を構造的に把握し、論理的に思考する姿勢をもつ。	社会科学的研究設計の方法について基礎的な知識を習得するとともに、関連の先行研究を読解する。また研究設計の方法に基づいて課題設定を行い、ミニ・プロジェクトを設定し、先行研究調査・現地調査を行い、その結果をまとめて発表する。	0.3	0.2	0.3	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれら进行分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199507	卒業研究準備演習（中村祐司）	まちづくり提案に参加し、提案発表に至るまでのプロセスで、取材やヒヤリング方法、関連資料の読み方や分析方法などを学び、政策バランスのある思考力・洞察力を身につける。	国外・国外の社会科学・人文科学領域における政策テーマを各自が一つ取り上げ、現地調査を通じて、波及課題も含めて把握し、当該政策のプロセスのみならずあるべき政策案についても発信する研究活動を実践する。	傍観者の立場からではなく、立案者の立場から取り上げた政策課題についての研究を深め、良質な政策提言を発信する能力を習得することで、国際社会人・国際文化人にふさわしい基礎的資質を身につける。	0.3	0.2	0.2	0.3
K199508	卒業研究準備演習（磯谷玲）	各自の問題関心に応じた課題の選定、それに対応した研究・議論を通じて問題意識を発展させる。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門的知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	文献・資料の購読と批判的検討を通じて、より深い専門的知識を獲得する。また、討議を通じて、得られた知識を発表し、生産的な議論を行う能力を養う。各自の問題関心に応じて関連する参考文献・資料を購読紙、より深い理解を得る。	0.2	0.1	0.4	0.3
K199513	卒業研究準備演習（今井直）	各自の関心のある国際問題や人権問題について、各自あるいは教員が選んだ論文等について書評し合い、またその内容について討論します。	卒業研究のテーマと方法論を確定する上での必要な知識と能力を習得します。	論文の読み方・書き方を理解、習得し、良い論文とはどういうものかを判断する能力を養います。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199514	卒業研究準備演習（梶 永茂）	卒業研究のテーマに沿って、先行研究となる論文を多く読むことによって、卒業論文を書く力を身につけます。	情報化社会の諸問題に特化した知識の学習とその理解、IT情報技術・技能を身につけることに関連する。	1. 論文の読み方・書き方の習得 2. 卒業研究のテーマの確定	0.3	0.1	0.3	0.3
K199515	卒業研究準備演習（阪本 公美子）	本授業では、「発展途上国」に関する基礎的知識及び考察力に基づいて、卒業研究を行なう準備として研究計画書を作成し、卒業論文の序章を執筆し、以下の能力を養うことを目標とします。	①知識・理解：卒業研究のために自ら設定したテーマに関して、基本的文献を読み進め、先行研究を理解する。 ②思考・判断：卒業研究のために設定したテーマに関して、既存の研究を踏まえて問題設定し、論理的に考察する。 ③技能・表現：卒業論文のための文献・資料の収集や引用の技術を徹底し、文章の論理的構成能力を磨く。 ④関心・意欲・態度：自ら設定したテーマから問題設定を導くことによって、自発的な研究態度を養う。	1. 主体的に研究テーマを定め、問題を設定すること 2. 設定したテーマ・問題に関して、文献・資料・情報を収集すること 3. 設定したテーマ・問題について先行研究にあたり、整理すること 4. 問題設定に関して、適切な研究方法を選び、計画を立てること 5. 資料に基づいて、論理的に卒業論文を構成すること 6. 引用・参考文献など論文の論文記述形式を身につけること	0.2	0.3	0.3	0.2
K199519	卒業研究準備演習（松尾昌樹）	卒業論文を作成するための研究を行う。	(C) 専門的な文献の読解し、批判を発表と議論を通じて行うことで、専門知識を深める。(D) 自分たちは異なる世界の社会問題に広く関心を持ち、社会の諸問題について考察し、論文にまとめる。	・異なる地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 ・自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題について論文にまとめる。	0.1	0.1	0.4	0.4
K199520	卒業研究準備演習（吉田一彦）	資料収集・分析法や論文執筆のための表現技術を学びます。また、研究開始に向けた専門基礎知識の確認をします。論理的な情報分析能力・考察能力・意見交換能力・表現能力を身につけるための活動を行います。さらに、参考書購読による執筆法の基礎の確認、論文事例の検討、研究計画立案法の実践も行います。	研究指導を受けながら卒論を書く人のために、それを機会として専門家として生きるための情報収集・分析・発表・報告技能を獲得する機会を提供します。	卒業研究を行うための前準備として必要になる知識と技能の確かな習得を目指します。これには、A) 資料の収集・分析法や論文執筆のための文章表現法・表現技術など受講者に共通のもの、B) 各受講者の問題設定に応じた個別のものとするが、本演習ではその両方を同じだけ重視します。	0.1	0.3	0.3	0.3
K199521	卒業研究準備演習（スエヨシ アナ）	卒業論文を作成までに指導受ける。	本演習はラテンアメリカの経済、社会、文化等の情勢や、ラテンアメリカ地域や国家について関心がある学生を対象とします。	卒業論文の作成に向けてラテンアメリカ経済、政治、社会の問題を検討しながら、卒業論文の作成方法を学ぶ。	0.3	0.2	0.2	0.3
K199522	卒業研究準備演習（重田康博）	NGOや日本政府による開発協力―参加型支援、プロジェクト評価、NGOによるアカウントビリティ、政府とNGOによるパートナーシップ等の課題を取り上げ、国際協力の応用編を学びます。	卒業研究準備演習として、国際協力の諸問題を横断的に理解し、専門的な知識を得ます。戦後の国際協力の時代・地域研究の諸問題を実証的・合理的に考察することができます。専門的な文献の読解を行い現地調査を行う技能を身につけることができます。世界や日本の諸問題を解決するために、大学で学習した知識や技能を活用して実践して行動することができます。	1 問題意識を持ち、問いを設定していく力を育てます（創造力） Creativity 2 卒業論文を書くための基本的な知識を身に付けます（知識） Knowledge 3 卒業論文の方法や技術を身につけます（技術） Skill 4 社会の現場に行って実践します（実践） Practice	0.0	0.4	0.4	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K199525	卒業研究準備演習（清水奈名子）	学術論文を執筆する意義と目的を確認しながら、卒業研究に必要な知識と方法を学ぶことで、各自が論文の主題を設定し、議論を構成する力を身につける。	卒業研究の主題に関する先行研究を正確に読解し、その内容について論理的にまとめて文章化し、さらに自ら考えた論点について生産的な議論を自発的に行う能力を養成する。さらに自ら卒業論文の議論構成を考え、文章化して発表する力を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究と自らの考察を区別し、比較しながら、法学的・政治学的な枠組みを使って思考、判断する。 先行研究を参照しながら、自らの卒業論文の主題を設定し、その内容をまとめて発表する。 自らの卒業研究に関わる国際問題についての学術的な情報を意欲的に収集し、自発的に学習する。 	0.1	0.3	0.3	0.3
K199526	卒業研究準備演習（古村 学）	農山漁村などの地域社会を対象とした現地調査（フィールド・ワーク）をもとにした卒業研究を計画している学生を対象に、卒業研究に向けた準備作業をおこなう。	以下のカリキュラム・ポリシーに対応している。「資料や専門書の分析・読解、実地調査、そして論理的な文章執筆のための方法論を学び、専門的な議論を組み立てるための、論理的な思考力を要請する」「調査し、分析した内容を体系的にまとめ文章化し、または口頭で発表して考察内容を伝えるときに、ほかの人々と問題を共有するための表現力を養成する」	卒業研究とどのようなものかを理解し、卒業論文を作成できる体制を作ることが目標です。	0.3	0.2	0.3	0.2
K199527	卒業研究準備演習（松村 史紀）	以下の各点について指導をする。 1. 問題意識の醸成と研究対象の設定 2. 先行研究の批判的検討と研究方法の選定 3. 研究資料の調査、解説、分析 4. 論文の章建て	<p>(A) 国際政治の発想に基づき、歴史史料を利用しながら緻密な実証研究を進める。</p> <p>(B) 史実に対する複数の視点から複数の解釈を立てる。</p> <p>(C) 英語あるいは中国語の史料を読み、歴史的分析をする。</p> <p>(D) 研究対象にする史実が、現代国際政治の基礎をどのように形作っているのかについて考察する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 強い問題意識をもとに、研究対象を選び、先行研究を批判的に検討。 史料の読解、史実実証の方法を身につける。 一つの学術論文を論理的に構成する力を身につける。 自身の研究内容を簡潔に伝える能力を身につける。 	0.2	0.2	0.3	0.3
K199528	卒業研究準備演習（威 傑）	卒業論文研究と作成に関する指導を行なう。	国際社会に対する理解を深めるための科目として開講する。	独自性や学術性を備えた学術的価値の高い内容を持つ卒業論文の完成。	0.2	0.3	0.2	0.3
K199529	卒業研究準備演習（栗原 俊輔）	グローバル・ガバナンス関連分野から具体例を挙げながら、卒業研究実施のための基本的な知識と技術を身につける。	卒業研究のテーマ選定の仕方をはじめ、グローバル・ガバナンス関連分野に関して学んだ知識と経験を系統的に整理しなおしてまとめる技術を習得すると同時に、情報収集・分析に必要な語学力を身につけ、卒業研究に備える。	論文の構成、情報収集方法、現地調査方法、データ分析、発表方法等、卒業研究に必要な基礎を理解し、実践できることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K199530	卒業研究準備演習（立花 有希）	多文化共生教育という題材を通して、「実践的で専門的な知識を修得する」ことを目指す。	卒業研究のテーマに関する知識・認識を先行研究等から獲得し、文献講読を通して、実証的かつ合理的に考察することを学ぶ。演習内での発表やレポートの作成を通じて、文献や資料を適切に用いて分析し、論理的に考察する方法を習得し、問題の解決に自らが貢献する具体像を用意する。	必要な資料を収集し、分析した上で、論理的な主張を口頭あるいは文章で展開することができる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K199531	卒業研究準備演習（湯本浩之）	国際学部専門教育科目の「グローバル教育論」や地球規模の諸問題の解決に向けた教育的アプローチに関連するテーマなどで卒業研究を予定する学生を対象に、卒業研究に向けたテーマ設定、参考文献の収集、先行研究の検討、研究計画の立案、論文作成の作法などに関する助言・指導を行います。	国際社会科学が掲げる4つのディプロマ・ポリシーのうち、特に以下の項目と関連します。 (C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 (D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。	「卒業研究を準備する」という意味で、以下の点をこの演習での到達目標とします。 ①研究テーマを設定し、論点や論題を絞り込むこと。 ②自分のテーマに関する基本的な図書・論文・資料などを収集すること。 ③自分のテーマに関する先行研究を検討すること。 ④必要な調査や研究の実施計画を立てること。 ⑤論文執筆に必要な「作法（文章表現・引用方法・文献リストの作成など）」を習得すること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K520010	言語学	言語学とは言語とコミュニケーションの本質を解明する研究分野のことをいいます。本授業では、言語の構造と機能に着目して、言語学の基礎を学びます。	学科基礎科目として国際文化学科の選択必修科目に位置づけられ、言語とコミュニケーションに関する科目群の基盤ともなっています。この科目は、言語の視点から文化領域の基礎知識を与え、経験科学の思考法を養い、人間の営みにとって重要な言語に興味を持たせることをめざしています。また、配布資料と口頭説明・板書を主とした伝統的な講義の聴講能力も養います。	本授業の到達目標は次の2点です。 (1) 英語と日本語を主な対象として、言語学とは何かを解説する。 (2) 実践的な外国語を学習するための理論的基盤を与えて、外国語学習の一助とする。	0.4	0.4	0.1	0.1

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K520015	対照言語学	対照言語学とは、系統関係のない2つ（以上）の言語を比較し、その相違点と共通点を明らかにして、言語学習や言語普遍性の解明に役立てようとする研究分野のことです。本授業では、日本語に焦点を合わせて、そこから英語などの他言語を眺める形で、言語間の比較対照を行います。	言語を比較対照することを通して、文化領域の知識を深め、文化の様相を相対化して捉える能力を養います。また、言語比較のおもしろさを提示し、言語比較を通して思考力も高めます。最後に、小論文の作成により比較考察の成果を文章化する能力も求めます。	日本語と英語を主な研究対象として選び、その相違点と共通点を明らかにして、英語学習や日本語学習、言語普遍性などへの寄与も試みます。	0.4	0.4	0.1	0.1
K520028	比較文化論	Using the diversity of the class as a resource, this class will explore various topics such as gender, race, stereotypes, environment, conflict etc. To see how our idea of "culture and identity are constructed and how it is maintained in the mass media today. Themes will be introduced and developed using class handouts but students are expected to make weekly contributions based on their own research and experiences.	The focus of this course is to develop critical perspectives on cultural differences and similarities. By using a model for cultural analysis and descriptions, learners will explore beliefs, values and commonly held stereotypes in order to form a complete, independent and personal understanding of various cultures.	This comparative culture course utilizes various disciplines (e.g. anthropology, history, literature, etc.) and various methods, both qualitative and quantitative, to analyze cultural phenomena for the purpose of better understanding our own and other cultures.	0.2	0.3	0.3	0.2
K520036	芸術文化論	芸術、文化とは何かという基本的な問いを出発点に、その概念の多様性を、様々な芸術ジャンルを通じて学ぶ。歴史的な視点を導入し、時代/地域によって異なる芸術のありようを通じて、芸術に潜む権力構造、作品解釈の方法について学ぶ。	(A) 芸術の歴史・地域における多様なあり方を、概念、具体的作品といったいくつかの位相において学ぶ。(B) 芸術をどのように捉えるか、能動的にいかに関与/理解するかという方法を学ぶ。(C) レポートや授業時間内の課題を通じて、授業内容についての思考し表現する力を養う。(D) 芸術を社会の内部における営みとして理解し、積極的に関わる態度を養う。	芸術の多様な有り様を理解し、認識した上で、自ら積極的に芸術作品に触れ、知識の裏付けのある、学術的な思考法によって考察/解釈する主体となることを目指す。	0.2	0.3	0.3	0.2
K520044	西洋現代思想	人間はこの世界とどのように関わっているのか、そして自らをどのようにとらえるべきなのか。この哲学的な問いについて、西洋現代思想の系譜に沿って考えていきます。思想家たちの残した言葉に実際に触れながら、混迷の度合いを深める現在の世界を生き抜くためのヒントを汲み取ります。全講義を通して、「哲学」を欠いたいかなる知識も、いずれは滅びる運命にあることを学びます。	(A) 西洋現代思想の主な潮流とその歴史的背景について、基礎知識を身に付ける。(B) 常識や通念を疑う西洋現代思想の思考法を学びながら、自文化に関する考察・反省に応用する。(C) 毎回の提出物を通して、西洋哲学のポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養う。(D) 西洋現代思想について、自文化への応用を通して理解する態度を養う。	西洋現代思想の主な潮流とその歴史的背景について基礎知識を身に付けるとともに、常識や通念を疑うその思考法を学びながら、自文化に関する考察・反省に応用することを目指します。毎回の提出物を通して、ポイント・論点を把握し、適切に表現する力を習得するとともに、西洋哲学の思考法を、自文化への応用を通して理解する態度を養います。	0.5	0.3	0.2	0
K530015	日本文化論（歳時編）	日本の気候風土に根ざした、季節に関わる伝統的な生活行事について、文献資料と図像資料を通して学ぶ。	日本文化を発信する基礎力を身につけることが期待される。	日本の歳時、季節感について学び、日常生活で意識する。講義の要点を把握し、歳時、季節感を通して日本文化の特質について考察して的確にまとめる。	0.0	0.0	1.0	0.0
K530023	日本思想史	近代の学校教育は、西洋の知識や技術を取り入れる目的で作られたもので、日本の思想・文化についての説明は、実際とは大きく異なる。授業では民俗学やインドからチベットに伝えられた仏教の伝統を手がかりに、明治以前の伝統的な宗教のあり方について具体的なイメージで掴み、それとの関係で、文化の諸ジャンル（文芸・芸能）を捉えなおす。	宗教を核に文化の諸ジャンルの相互関係を理解することによって、国際社会で必要とされる、自己の文化を説明する能力を養う。	伝統宗教と文化の諸ジャンルの関係、伝統と現在の私たちの関係を知ることによって、外国人に自国の文化について説明する能力を養う。	0.2	0.2	0.2	0.4
K530031	日本文化論（文学編）	一つのテーマにそって様々な作品を読み、それぞれの特質について考察を加え、作品を評論する。	文学作品を鑑賞し、評論する基礎力を身につけることが期待される。	文学作品を読み解く視点を学び、文学作品を通して日本文化の特質について考察する。講義の要点を把握し、考察を的確にまとめる。	0.0	0.0	1.0	0.0
K530059	韓国文化論	韓流ブームもあって、ここ数年韓国は日本にとってほかのどの国よりも身近な存在となりましたが、現実には中身の伴わない、実に薄っぺらなものです。その理由は韓国文化の本質が全く伝わっていないからです。本授業では、メディアによく取り上げられる食文化や美容整形、スポーツといったキーワードを取り上げ、それぞれの文化事象に込められている現代韓国社会の動向とその背後に潜んでいる韓国文化の源流に迫ります。	ポストモダン化が進む韓国社会を理解する上で基本となる知識の獲得を通じて韓国社会が長年育んできた伝統文化への理解を深めます。	韓国社会が長年育んできた伝統文化への理解を深めると同時に、韓国文化の特質を日本や中国、欧米など他文化との比較を通して理解する力を育成します。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530066	中国文化論	<p>中国及び東アジアにおいて、「文化」とは何であったのか。また、「中国」とは、そして「アジア」「東洋」とは、いったいいかなる存在なのか。本講義では、このことを「東アジアの中の日本」という視点から学生に考究させることをその目的とします。基本的な文献資料に基づき、どのような異文化接触の過程で中国文化が形成されてきたのかについて、歴史学の立場より察を加えます。また、中国文化に対する興味を喚起するため、台湾でのフィールドワークの成果に基づく具体的な文化事例を示し、「周辺」という視点から中国における伝統社会や文化を照射して、その多様性や背景を考察します。</p>	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。 →中国社会の多様性とその背景に関する理解を歴史学を軸とした文化論の立場から深める。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 →中国社会の歴史の変遷を原典理解を通じて実証的、合理的に理解する方法を身につける。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 →現地における専門的な文献の収集、及び実地調査を行うために必要な基礎的な情報や能力を紹介することにより、知識や情報を主体的に収集し、その重要性を身につけさせる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。 →日本における中国社会への表層的な理解と学術的な分析との差異を示しつつ、今後の日中関係の問題点を考えるための基礎的能力を養成する。</p>	<p>1. 「中国」とは何か、ということを考える基本的な視角を身につける。</p> <p>2. 日本が中国、アジアをいかなる存在と認識してきたか、その歴史の変遷について理解する。</p> <p>3. 中国における「文化」とは何かということを考えるための基本的な視角を身につけさせる。</p> <p>4. 社会と文化、政治と文化の関連性についての理解を深める。</p> <p>5. 中国における伝統文化の形成について、歴史的な視点から理解する。</p>	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530067	アジア近現代思想論	近代の日本は「アジア」をいかに認識し、いかに交わり、いかに構築しようとしたのか。アジアという空間をめぐる思想史を「中国」を中心にすえて考えることをその目的とする。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。</p> <p>→「中国文化論」を履修することにより、歴史学的な手法により中国社会の多様性とその背景への理解を深めた学生を対象に、近代日本において対中国認識がどのように変容していったのかという点を思想史という枠組みから理解させる。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。</p> <p>→近代日本における対中国社会認識の変容を明治から戦前までに知識人によって記された文献を直接読むことによって、原典を通じた表証的手法を身につけさせる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→現地における専門的な文献の収集、及び実地調査を行うために必要な基礎的な情報や能力を紹介することにより、知識や情報を主体的に収集することの重要性を身につけさせるとともに、文献を輪読し、報告することによって、批判的に分析する能力を高めさせる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。</p> <p>→日本における中国社会への表層的な理解と学術的な分析との差異を踏まえて、その差異を踏まえて世界史で勝りたかを理解する。</p>	<p>1. 近代日本において、アジア、中国がいかなる存在と認識されてきたか、その歴史の変遷について理解する。</p> <p>2. 日本人の中国認識に関する主要文献を認識し、その基本的内容について理解する。</p> <p>3. 戦後の日本における中国認識と戦前のそれとの連続性と非連続性について考える基礎的な能力を身に着ける。</p>	0.3	0.3	0.2	0.2
K530077	ヨーロッパの歴史と文化	13世紀以降のヨーロッパ文明の特質を、他文明との比較を通して説明する。	異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察すること。	・世界史のなかのヨーロッパ文明の基礎的知識・特徴を理解する。	0.4	0.2	0.2	0.2
K530085	キリスト教文化論	一口にキリスト教といっても、その内実は決して一枚岩ではない。「普遍的な」を意味するカトリックでさえ、理念としてまた組織としては一つであっても、どのレベルで考察するかによってみえてくるものが異なる。本授業では、中世以降のカトリック世界を対象に、その多様性・多層性を確認する。	異なる時代・地域の社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察すること。	「キリスト教」の相対化。	0.2	0.6	0.1	0.1
K530112	地誌学概論A	地誌学の輪郭を講義する。地誌学の対象たる地球地域の見方、とらえ方、調べ方を平易に説明する。したがって、その内容は世界地誌や外国地誌、日本地誌、地方誌などではなくて地理学的見地に立つ地域論である。	中学校社会、高校地歴の免許取得聴講科目。地誌学の入門編としての意義をもつ。	・地球地域を見る確かな観察眼をもつようになる。 ・グローバルな意味での地域多様性概念を修得する。	0.4	0.4	0.1	0.1
K530113	地誌学概論B	地誌学の基本的な視点と地誌の構成を概観した上で、日本の地方誌および各国地誌を動態地誌的な方法により学ぶ。	中学校「社会」および高等学校「地理歴史」の免許取得のための選択科目。世界および日本の諸地域に関する地誌学習を指導するための基礎的な知識・技能を育成する。	・地誌の構成と静態地誌・動態地誌の学習法についての理解を深める。 ・地誌学習をつうじた地域的特色の追究方法を体験的に修得する。	0.3	0.3	0.0	0.4
K530120	アジア比較地誌論	アジア地誌の基礎的事項を確認しながら、アジアの地域的多様性とその地理的背景の意義に関し、いくつかの指標の地域比較を通して、具体的に理解させる。	高校地理の履修者が少ないことを前提に、アジア地誌の基礎的理解を養い、アジアの個別地域に関する問題意識の喚起と学習の深化をはかるための準備科目として位置づける。また、高校地理歴史及び中学校社会の教員免許取得のための科目群の1つとして開講する。	アジアにおける地理的諸指標の分布や地域差に着目して各地域の特性を理解するとともに、その結果をアジア全体、世界全体の中に位置づけて把握する視点を養うことを目的とする。また、自らの理解の深化や課題の抽出に向けて、統計データ・地図・景観写真等の資料を活用する基礎的な技能を養う。	0.3	0.3	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点を持ちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530147	イギリス文化論	イギリスの文化を形成する様々な側面について広く学ぶ。講義形式が基本ではあるが、発言をしたり、考えをまとめたりする機会もある。併せて、文献資料を要約する作業を複数回行う。	(A), (B)および (C)と関連している	・イギリス文化についての基礎的な知識を獲得する。 ・獲得した知識をもとに、その他の分野・地域の文化的事象に対しても積極的に興味を広げられるようにする。	0.4	0.4	0.2	0.0
K530155	イギリス文学史	古代、中世から現代にわたるイギリス文学史を概観します。	各学生の専攻に応じて、教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。	イギリス文学の生成、発展、消長をイギリスの文化、歴史、社会的背景のなかに位置づけ、理解し、把握した上で、なおそれらを味わう素養を養います。	0.5	0.2	0.2	0.1
K530163	アメリカ文化論	米国の文化や歴史を多角的な観点から概観する。	米国について学ぶことで、異文化への理解力や分析力を身につける。	米国の歴史や文化について知識と理解力を身につける。	0.6	0.2	0.0	0.2
K530171	アメリカ文学史	米国文学の歴史を概観する。	文学を通して異なる文化への理解力と分析力を深めることに貢献する。	米国文学についての基礎知識を習得し、幅広い観点から考察する姿勢を持つ。	0.6	0.2	0.0	0.2
K530183	ドイツ文化論	狭義のドイツ文化ではなく、現代社会の幅広い意味での文化の実態を探る。ステレオタイプのドイツ像ではなく、地理、社会構造、文化事象等ドイツの実情を具体的に把握し、日本と比較することにより、ドイツ文化の特質を吟味する。	ドイツの文化・社会・歴史を日本と対照しつつ理解することにより、ドイツの特性を文学や哲学、音楽、映画、教育システム等多角的かつ深く把握することを目的とする。	ドイツの文化や社会について一般的知識を獲得する。関心・興味ある事象を発見し、それらに関する幅広く深い知識の修得を目指す。この前提の下、自分なりのドイツ観を確立することを目標とする。	0.2	0.4	0.2	0.2
K530198	フランス文化論	この授業では、フランス語文化圏のエッセンスを解説します。フランス語文化圏諸国は、どのような歴史のなかで、どのような文化を培ってきたのかを、複数の視点から学習します。半期を通して、受講者のなかの「フランス」のイメージは大きく変化することでしょう。	(A) フランス語文化圏の文化とその地理的・歴史的背景について、基礎知識を身につける。(B) フランス語文化圏の価値観とそれに基づく思考法を学びながら、自文化に関する考察に応用する。(C) 毎回の提出物を通して、フランス語文化圏のポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養う。(D) フランス語文化圏の価値観について、自文化への応用を通して理解する態度を養う。	フランス語文化圏の文化とその地理的・歴史的背景について基礎知識を身につけ、フランス語文化圏の価値観とそれに基づく思考法を学びながら、自文化に関する考察に応用できるようにします。毎回の提出物を通して、ポイント・論点を把握し、適切に表現する力を養うとともに、異文化圏の価値観について、自文化への応用を通して理解する態度を養います。	0.5	0.3	0.2	0.0
K530200	ドイツ学－文芸と社会	ドイツ文学の代表的作品を読み、全員参加で内容について理解します。	国際学部生に求められる異文化理解力を身につけます。	学問としての文学とは何か、ということを理解します。	0.3	0.1	0.3	0.3
K530210	東西比較文化論	Using the diversity of the class as a resource, this class will explore various topics such as gender, race, stereotypes, environment, conflict etc. To see how our idea of "East" and "West" is constructed and how it is maintained in the mass media today. Themes will be introduced and developed using the text book but students are expected to make weekly contributions based on their own research and experiences.	The focus of this course is to develop critical perspectives on cultural differences and similarities by analyzing concepts of East and West. By examining examples of religion, philosophy, history, geography and communication, learners will explore beliefs, values and commonly held stereotypes in order to form a complete, independent and personal understanding of various cultures.	This comparative culture course utilizes various disciplines (e.g. anthropology, history, literature, etc.) and various methods, both qualitative and quantitative, to analyze cultural phenomena for the purpose of better understanding our own and other cultures.	0.2	0.3	0.3	0.2
K530228	日韓文化交流史	夏目漱石や森鴎外、芥川龍之介など近代日本を代表する文学者が韓国朝鮮について書いた旅行記や小説、詩、短歌を取り上げ、近代日本文学に描かれた韓国朝鮮像を考察します。	文学作品の分析を通して、他者としての韓国表象とその裏返しである日本の自画像を映し出すことに関連する。	日本人の韓国人に対する伝統的かつ通俗的見方に対して批判的精神を養います。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530260	日欧比較文学論	本講義では、シェイクスピア戯曲のいくつかを取り上げて、それら原作がたどったその歴史的展開とヴァリエーションのありようを、実作品に即して見てゆきます。それによって浮かび上がってくる、国や時代による文化背景の違い、文学・芸術メディアのもつそれぞれの特質の違い、製作者の個性の相違などに注目しつつ、日欧を中心に比較文学的考察を加えたいと思います。	各学生の専攻に応じて、教養として、または専門の研究に必要な基礎知識として役立ててください。	ひとつの国、ひとつの時代に生まれ、世界的な古典ともなった文学作品の影響、受容そしてその再生産を通して、文学の伝統と変容とについて思いをいたすきっかけとしたいと思います。	0.5	0.2	0.2	0.1

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530287	比較児童文学論	「児童文学」とは何かについて、まずは自身の意識を自覚するところから出発し、近代以降のこのジャンルの生成・発展、そして転換を歴史的に概観するとともに、いくつかの作品を具体的に読みすすめる中から、課題と可能性を追究していきます。	分野的に特化した文化領域についての進化した知識・認識を有し、異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行う力を身につける、というカリキュラムの目標に、資するものとする。	「児童文学」ジャンルについて基礎知識を得るとともに、このジャンルの成立と変遷の過程を歴史の文脈におきながらその特質を理解することをねらいとしています。また、個別の作品に接することで文学表現の理解力および鑑賞力を養い、子どもという読者対象への関心を深め、文学を社会と関わらせて捉える態度を身につけます。	0.2	0.3	0.3	0.2
K530295	西洋史概説	大航海時代以来のヨーロッパの海外進出が非ヨーロッパ世界に与えたインパクトを検証すること。世界交易から始まる経済的世界の一体化がヨーロッパ社会にどのような社会変動を生み出したかを革命のヨーロッパに焦点を絞って見ていく。産業革命以降、ヨーロッパ諸国間での競争が何故植民地支配や世界大戦に導いていったのかを考察していく。	大航海時代以来のヨーロッパの海外進出が非ヨーロッパ世界に与えたインパクトについて歴史的・地理的・理想的観点から総合的に理解し、基本的な知識を身につけた上で、異なる時代や地域の文化の様相に対し、比較考察的で、相対的な視点をもちつつ、科学的、実証的な考察、評価を行うことができる能力を養成する。	本講義の到達目標は、15世紀以降の西ヨーロッパを中心に開始される世界の資本主義の一体化の動きを歴史的に検証していく。世界システムの形成の歴史的把握を前提として、現代の様々な資本主義の世界の問題について、深く理解することを目指す。	0.2	0.5	0.1	0.2
K530309	日本史概説	日本の歴史に関する基礎的な知識の充実をはかり、日本文化についての理解をふかめることを目的とします。	国際社会や国際文化をまなぶための前提として、いまいちど日本社会や日本文化の歴史的特質を自覚的にみなおす基礎科目に位置づけられます。教育職員免許状を取得希望の場合、必修科目に指定されることがあります。	日本の歴史のあゆみや、日本固有の文化の形成・変遷・特色などをあらためて認識することによって、海外の社会や文化と比較検討する際の礎をきずくことを目標とします。	0.4	0.4	0.1	0.1
K530333	東洋史概説	中国近代史を、中国社会における資本主義の成立と展開という視点から見直してみます。	国際理解の一つとして、ヨーロッパ近代社会とは別の展開をしたアジアの資本主義を学び、国際教養を深めます。	「改革開放」の名のもとに資本主義経済を推し進める現代中国社会の特質を理解します。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530337	哲学概論	西洋哲学史を概観した上で、とりわけ近代哲学者たちの議論を紹介しながら、主に次の二つの問いに迫る。第一に、哲学において「考える」ということはどのようなことかを明らかにすること、第二に、「自由と責任」という概念に軸に、「いかに生きるべきか」という、古くかつ新しい哲学的問いを探索することである。	常にすでに正解が用意されているわけではない問題について考える力を身につけることが目指される。それによって、国内外の社会問題について、既存の価値観、倫理観等にとらわれない、国際的・学際的な探求心を養う。	・西洋哲学史に関する基礎知識、および、哲学的に「考える力」を身につける。 ・社会生活において求められる「考える力」とは何か、を考えることができるようになる。 ・現代社会におけるさまざまな倫理問題を認識することができるようになる。	0.1	0.1	0.4	0.4
K530368	比較思想論	ヨーロッパ近代における重要な道徳及び哲学の源泉である功利主義の思想をそれと常に対比されるカント哲学と比較しながら学ぶ。	本講義は国際学部の専門科目として、西洋の倫理想、社会思想について知識を深めることを目指す。	義務論の倫理学と功利主義の倫理学についてその概要を知る。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530384	現代芸術論	現代芸術を理解する上で必要な理論的枠組みについて説明するとともに、現代芸術が提起する諸問題について考えていきます。作品がどのような文脈から生まれ、どのような意図が込められているのかを探っていきます。	現代芸術は、現代社会が抱える様々な問題を反映している場合が多々あります。国境を越えて人々の心に訴える力をもつ現代芸術への理解を深めることは、国際的で幅広い視点を養う上で大切です。	現代芸術に触れたときに、どのような背景からそうした作品が生まれたかを理解し、そのうえで自らの視点ももてるようになること、また現代芸術が次々に提起する問題に対し、意見が述べられるようにすることを目標とします。	0.3	0.3	0.1	0.3
K530430	表象文化論	表象という概念によって、文化研究の枠組みや方法はどうかという議論の出発点に、中世から二〇世紀初頭までのヨーロッパ文化史を概観しながら、文化を考察する諸方法を学ぶ。文化史、作品分析を主要な考察内用するが、適宜、理論的な内容を差し挟みながら、抽象的思考への導入も行う。	(A) 表象文化論によって可能となる文化研究の方法を、概念、具体的作品といったいくつかの位相において学ぶ。(B) 文化をどのように捉えるか、能動的にいかにか解釈/理解するかという方法を学ぶ。(C) レポートや授業時間内の課題を通じて、授業内容についての思考し表現する力を養う。(D) 表象について、理論等を援用しつつ、積極的に考察する態度を養う。	表象の意味する領域の広さを認識し、それが関連する社会の諸相の多様性を理解した上で、思考の方法、学問的知識、理論を用いて論理的な思考によって表象を分析する力を養うことを目指す。	0.2	0.3	0.3	0.2
K530449	身体表現論	コミュニケーションの手段として非言語メッセージの役割は大きいものがありますが、それがもつ意味は世界共通ではありません。本講義では、身体表現を非言語メッセージの視点からとらえ、個々の非言語メッセージの形態、それが運ぶ意味を例示するとともにそれがどのようにして獲得されたのかを探ります。これらをとおして、自文化、異文化について深く学んでいきます。	本講義は、国際文化学科専門教育科目の選択科目であり、その目的は、日常生活における、ことばにらざることば（ノンバーバル）によるコミュニケーションの実際を考察するとともに、それを基にした自文化、異文化についての理解を深めることにあります。	本講義では、コミュニケーションにおける非言語メッセージの役割を理解するとともに、異文化によりそれらが異なる形態やメッセージをもつことやそうした違いを生じさせている背景について認識することを到達目標とします。	0.2	0.4	0.2	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530459	英語学特殊講義A	意味の研究には色々あるが、人間の概念構造を対象とし、中でも単語の意味特性がどのように統語構造（いわゆる文法）に反映されるかを問う語彙意味論の研究を概観する。	言語普遍的な意味概念と言語固有の統語構造の関係を対象とする研究を概観することで、英語教育に必要な人間の言語能力に関する洞察を養う。	意味論研究の中で、統語構造との関係を重視するJackendoffの語彙意味論の基本概念を理解し、統語的規則性とは違った様々な意味的規則性に触れ、言語能力の理解を深めることを目標とする。	0.0	0.0	0.8	0.2
K530460	英語学特殊講義B	生成文法の中での意味論の位置づけを踏まえ、意味役割理論や場所理論などの基本概念を紹介し、それらと統語構造（いわゆる文法）との関係を概観する。	言語普遍的な意味概念と言語固有の統語構造の関係を対象とする研究を概観することで、英語教育に必要な人間の言語能力に関する洞察を養う。	意味論研究の中で、意味役割理論についての考察と、それに基づく英語の構文：結果構文、二重目的語構文、中間構文に関する一つの分析を概観することで、英語構文と意味の関係に關しての洞察を養う。	0.0	0.0	0.8	0.2
K530465	言語と音声	英語の音声の構造を分節音とプロソディの両面から学修する。	英語の音声に関する学問的理解を深める。	英語の音声構造を学問的に理解し、発音記号を活用できるようになること。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530473	言語と認知科学	言語を認知科学の対象として研究する際、どのような問いが立てられ、それらの問いを解くためにどのような言語現象が観察され、どのようにしてどのような答えが出されるかを講述する。これらのことを理解するために、認知科学の観点からの言語研究の主要な問題をいくつか取り上げ、それらの問題に関する重要な研究事例を紹介、検討しながら、「心の科学」としての言語研究とはどのようなものかを示したい。		言語には認識、注意、記憶、推論などの認知（心の働き）の持つ性質が反映されているという観点からのアプローチが文法現象や意味に対してどのような記述や説明が可能になるかを理解することをめざす。同時に、そのような観点からの言語分析の方法についても理解を深めることを目標とする。	0.1	0.3	0.3	0.3
K530490	日本語論	日本語学の諸領域を概観したうえで、おもに語彙および文法の領域における問題をとりあげ、具体的に検討する。	学習・教育目標のうち、特に（A）知識・理解、（B）思考・判断の項目に深く関連する。	・現代日本語を諸言語のなかで相対的にとらえ、その独自性と普遍性を考える。 ・日本語の語彙・文法についての基礎的知識を身につけ、分析的に考える方法を学ぶ	0.3	0.3	0.2	0.2
K530503	日本語史	音韻・語彙・文法の諸側面に焦点をあて、古代語と現代語との対照をとおして日本語の変化の様相を諸側面からとらえる。	学習・教育目標のうち、特に（A）知識・理解、（B）思考・判断の項目に深く関連する。	日本語の変化をひきおこしてきた背景について理解し、考える力を身につける。また、資料を読みとり、理解する力を身につける。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530520	国際コミュニケーション論	国際コミュニケーションで意思を通じるためには、まず、我々が日本語で行なっているコミュニケーションとはどういう営みであるかを自覚しなければなりません。その上で、「国際コミュニケーションにはどのような特殊事情が加わるのかを知る必要があります。これらの二段階を通じて、成功する国際コミュニケーションの条件を考えます。	国際文化学科が掲げている「様々な文化の様相及び異なる文化間の交流について理解を深め、国際社会における相互理解に寄与する」という目的のためには、円滑に国際コミュニケーションが行えるということが不可欠です。この講義は、多くの日本人が国際コミュニケーションに対して持っている苦手意識の克服を目指します。	何かを教えてもらう（教えてあげる）、何かを売る（買う）、友人になる（絶交する）……外国人との交渉の必要性が生じた際に、スムーズにこちらの意向を相手に伝え、また、相手の気持を過不足なく理解できるための、重要なポイントはどこにあるのかを理解し、自分で良好な国際コミュニケーションが行えるための基礎的な力を養います。	0.3	0.3	0.2	0.2
K530538	民族誌学	この授業では構造主義、形式・実体主義経済人類学、マルクス主義人類学、世界システム論、オリエンタリズム批判などの人類学書理論に見られる贈与と商品の対比を概観することで、ローカルとグローバルに同時に接近する人類学の可能性を検討します。	贈与交換と商品交換の区別の通文化的違いを理解し、グローバル化した資本主義が伝統文化に与える問題を考察する。	構造主義、形式・実体主義経済人類学、マルクス主義人類学、世界システム論、オリエンタリズム批判などの人類学諸理論に見られる贈与と商品のさまざまな対比の在り方の理解	0.3	0.3	0.1	0.3
K530554	ジェンダー論	ジェンダーというのは非常に流行している言葉です。この授業では、この言葉をどのように使うべきか、どのように理解するべきかという二つの観点を中心に考えます。	ジェンダーの問題を分野横断的に理解し、相対的視点をもちつつ考察することのできるクリティカル・シンキングを支援します。	1960年代後半から性差別は大きな社会問題として顕在化しました。これを受けて国連は、「国連婦人の十年」を設定し女性の地位向上をはかる運動を積極的に展開し、「女子に対するあらゆる形態の差別撤廃に関する条約」を採択し「性による差別を性による区別、排除、制限」と定義しました。そして、人間は生殖機能において男女は明らかに異なるもの（セックス）であるが、性格、能力、役割における男女差は後天的に形成されるもの（ジェンダー）で、「男らしさ」「女らしさ」を押し付けることは人間の自由な生き方や平等関係を損なうものであるとの認識に至ったのです。この授業では、家族や教育、労働等の分野における今日的・具体的な問題や課題について諸外国の動きをみながら考えます。	0.1	0.3	0.2	0.4

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K530562	現代文化と哲学	近代に誕生した「科学・技術」のめざましい発展により、現代社会に生きるわれわれはその多大な恩恵に与るとともに、環境問題、医療倫理問題、情報倫理、企業倫理問題等々、大きな課題を受け継ぐことになった。本講義では、そのうち先端医療技術をめぐる倫理的諸問題（脳死・臓器移植問題、クローン問題、生殖医療等々）を取り上げる。また、近代哲学の大成者といわれるヘーゲルの法哲学、および、現代倫理学の諸議論に定住し、「人格」「所有権」「相互承認」「正義」という概念を手がかりに、現代社会が抱えるそれらの諸問題について、本来そこで何が問題であるのか、あるいは、何を問題とすべきなのかを明らかにしていきたい。	グローバル化・自由化が進み、資本主義市場（至上）経済のもと、個人々の幸福追求権がますますの高まりを見せている今日、ヘーゲルの法哲学および、現代倫理学の諸議論を礎に、「自由と責任」という概念を整理しながら、現代日本における「自己決定」の問題、および、国境を越えた社会問題に関する考察をすすめる。	・国境を越えた社会の諸問題として科学技術をめぐる倫理問題（とりわけ医療倫理問題）の状況を理解し、その基本的知識を習得する。 ・上記の倫理的諸問題について、異なる時代・地域の見解を比較、検討する。 ・その上で、自分なりの考えや意見を持ち、また、それを論証し、さらに、他者との「対話」を重ねる力を身につける。 ・自分たちとは異なる価値観、宗教観、死生観等に広く関心をもちながら、上記の社会問題について、実践的な解決の道を模索する。	0.1	0.2	0.3	0.4
K530566	翻訳文学論	Readings will be taken from poetry (waka, tanka and haiku) fiction (Heike Monogatari, Tale of Genji, etc.) drama (no, sekkyo, bunraku and kabuki), as well as religion (Shinto and Buddhism) and historical documents (Kojiki and Nihonshiki).	This course is designed in order for students to appreciate not only the range of genres of Japanese literature (thereby attaining a level of cultural literacy with regard to Japan), but also to begin to understand our own active roles in constructions of identity across cultures.	This course is both an introduction to the variety and range of Japanese literature and at the same time an opportunity for students to recognize the ways in which we, as human beings, construct cultural identities cultural literacy.	0.2	0.2	0.3	0.3
K530568	英語圏文化論	Mainly using the discipline of art history, this course will explore a wide variety of art works in the English-speaking world including not only Britain but also USA and countries in Asia from the 18th to the 21st centuries. The lecturer will give a course of lectures in English. Students are encouraged to describe art works, make comments, have discussions in groups and give short presentations in English.	(A), (B) および (C) と関連している	Students will be able to describe works of art with their own words and acquire critical eyes on them.	0.3	0.3	0.4	0.0
K560011	民族誌学演習	人類学が対象としてきた小規模な地域社会はグローバル化された国際社会に巻き込まれる一方、国際移民等を通して第一世界を侵食し、先住民運動、伝統文化の復興などの地域主義的動きを示しています。文化人類学の立場から第三世界の社会変動に関連する諸問題を検討します。	第三世界を中心に、グローバル化と地域社会の対応に関するトピックを選択し、文献・調査研究を立案実施する。	この授業では植民地主義、ジェンダー、エスニシティ、地域共同体と世界システムの接合等の今日的テーマを選択し、各自文献・フィールド調査を行い、問題意識を発展させることを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3
K560038	表象文化論演習	主に、文学理論や文化理論、表象文化論の基本的な文献の精読を通じて、表象文化論を研究するための素養を養う。	(A) 表象文化論の研究において必要な基礎知識として、諸理論や概念を文献の精読を通じて学ぶ。(B) 学んだ理論を用いて、自ら表象を分析する試みを行う。(C) レポートや発表を通じて、学んだことを研究を通じて統合しつつ表現力を養う。(D) 表象について、理論等を援用しつつ、積極的に考察する態度を養う。	多少難しく思われる文学理論の文献を読解し、抽象的な思考の実践を繰り返すことにより、思考の幅を広げるとともに、レポートや発表を通じて、表現力を磨くことを目指す。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560054	国際英語コミュニケーション演習	国際英語 (International English) とコミュニケーションを出発点として、言語や教育等の観点から、発表と討論を通して、英語に関して学修する。	国際英語、コミュニケーション、英語学、英語教育に関して、発表や討論を通して、学問的理解を深める。	世界で用いられている標準的ないろいろな英語の特徴を理解すること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K560062	対人コミュニケーション論実験	この授業では、対人コミュニケーションに関係した実験や調査などの研究をどのように行うかについて学びます。	・実験計画の基礎を修得すること。(C) ・対人コミュニケーションに関係した研究を自分自身で計画し、実際に実施して分析を行いまとめるための技能を習得する。(B,C) ・すでに行われた研究の評価を適切に行うための方法を習得する。(C)	・実験計画の基礎を修得すること。・対人コミュニケーションに関係した研究を自分自身で計画し、実際に実施して分析を行いまとめるための技能を習得する。・すでに行われた研究の評価を適切に行うための方法を習得する。	0.0	0.2	0.5	0.3
K560063	言語学演習	言語学の文献を読んで知識を深めながら、方法論を身につけます。ハンドアウトを作成して口頭発表する能力も訓練します。	学科基礎科目としての「言語学」に対応する演習科目です。また、言語とコミュニケーション科目群に対応する演習科目としても位置づけられます。「言語学」の履修をふまえ、言語に関する文化知識の深め、英語で書かれた入門的専門書の講読において、要点の正確な理解と全体的なまとめを行った上でその内容を口頭発表し生産的な議論を行う能力を養います。また、自分で研究課題を設定して資料を収集し、適切な方法で批判・分析した上で小論文を作成する能力も養います。	この演習では、コミュニケーションの基礎となる言語知識（特に文構造の知識）を理論的に解明する方法について学びます。主に英語を対象言語とし、生成文法理論の枠組みで分析していきます。また、社会言語学や認知言語学などの文献も取り上げます。	0.2	0.3	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的・相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K560079	日本語論演習	日本語学の専門的な文献を読むことを通じてこれまでに身につけた知識について理解を深めるとともに、自ら課題を設定して調査および発表をおこなう。	これまでに学んだ日本語学に関する知識についての理解を深めるとともに、自ら課題を設定し、調査分析した内容をまとめて発表する力を養う。特に学習・教育目標のうち、(B)(C)の項目に深く関わる。	1 日本語学の研究方法を学ぶ。2 課題について分析をおこない、考察内容を論理的にまとめる力を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560100	日本文化論演習	現代に継承されている日本の伝統文化について、文献講読と実習を通して学ぶ。	日本文化を発信する能力の向上につながることを期待される。	日本の伝統文化を継承する意識を持って実践的に身につけ、他人に説明できるようにする。	0.0	0.0	1.0	0.0
K560135	ドイツ文化論演習	「ドイツ文化論」の既修得者を対象とし、ドイツに係る興味や関心に基づき、知識の深化と拡大をはかることを目的とする。「文化」というものを狭義に捉えることなく、現代ドイツ全般の事情を広く知るという趣旨で授業を進める。履修者の発表と討論を主体とする。	ドイツ社会と文化の歴史を訪ね、多様な観点から日本と比較することにより、両者の違いを理解するとともに、その違いの根源を考察する。	自己の関心あるテーマについて、広く資料を収集し独自の考えをまとめ上げ、論理的に論文にまとめ上げるための訓練を行う。	0.4	0.2	0.2	0.2
K560143	フランス文化論演習	この授業は、フランス文化論（2年・後期・講義）の既習者を対象とします。フランス文化に関する専門性の高い研究を行うための準備クラスです。自分自身の興味にもとづいて研究テーマを決め、独力で調査を行い、他人に理解可能な言葉で発表することを実践的に学ぶ授業です。	(A) フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容を、その文献に即して正確に理解する。(B) フランス語文化圏に関する先行研究と自らの観点を区別・比較する基礎的な思考力を養う。(C) フランス語圏文化に関する文献調査、レジュメ作成、口頭発表、論文執筆などの基礎的な技術を学ぶ。(D) フランス語圏文化の価値観について、自らの興味に基づいて調査・理解・分析する自学自習の重要性を自覚する。	フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容を、その文献に即して正確に理解するとともに、先行研究と自らの観点を区別・比較する基礎的な思考力を養います。また、文献調査、レジュメ作成、口頭発表、論文執筆などの基礎的な技術を学び、フランス語文化圏の価値観について、自ら積極的に調査・理解・分析する自学自習の重要性を自覚できるようになることを目指します。	0.5	0.3	0.2	0
K560151	イギリス文化論演習	イギリス文化について、自ら調査するための訓練を行う。具体的には、調査を行うための方法を教員が提示し、それを受講生が実践し成果を報告する訓練を繰り返す。あわせて模範となるような文献の講読を行う。見学調査を複数回行う。	(B)、(C)および(D)と関連している	・イギリス文化について、自ら調査する方法を身に付ける。 ・調査した内容を効果的に報告する技術を身に付ける。	0.0	0.3	0.3	0.4
K560151	イギリス文化論演習	「イギリス文化論」で獲得した知識を、自ら調べることによって、知識を深めるために、グループによるプレゼンテーションを2回行う。そのために英語によるプレゼンテーションの方法を学び、同時にプレゼンテーションのための調査の仕方をも学ぶ。プレゼンテーションには、パワーポイントを使用する。	文化研究のための基本的な文献調査法、チームワークの行い方、英語によるプレゼンテーションの行い方、発表に対しての質問の仕方、意見の述べ方を学ぶ。	イギリス文化について、自らの調査に基づいて、ほかの人に英語でプレゼンテーションを行う能力を獲得すること、グループ内で意見を述べながら、協力して一つの調査を行う能力を獲得することを目指す。	0.3	0.2	0.3	0.2
K560160	イギリス文学演習	「イギリス文学史」で獲得知識を深めるために、いくつかのイギリス文学作品を味読する体験をする。そのために文学の表現手法について学ぶ。	文学作品の味読を通じて、イギリス文学の特質を理解するとともに、教職科目であることを考慮して、英語教育での文学作品の重要性も理解できることを目指す。	イギリス文学作品を英語で読み、英語表現の豊かさを味わいながら、文学作品の客観的な分析を行える能力の獲得を目指す。	0.2	0.3	0.2	0.2
K560190	アメリカ文学演習	米国文学のテキストを精読し鑑賞する。	文学の分析を通して、異なる文化への理解力と分析力を見につける。	米国文学を読み取るための知識と技能を習得する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560200	比較文化論演習	Through weekly presentation and directed research in a more personalized analysis of language and culture, students will develop a deeper understanding of topics in religion, intercultural communication, society and general comparative culture studies.	The focus of this course is to further develop critical perspectives on cultural differences and similarities by analyzing specific topics in cultural studies. Students are encouraged to explore topics of importance and personal relevance through presentation and participant research.	This comparative culture course utilizes various disciplines (e.g. anthropology, history, literature, etc.) and various methods, both qualitative and quantitative, to analyze cultural phenomena for the purpose of better understanding our own and other cultures.	0.2	0.3	0.3	0.2
K560216	日欧比較文学論演習	扱う素材は主として西欧の近代文学作品とその日本語翻訳書、および日本文学、またそれに関わる音楽、芸術メディアです。	通例では三年生後期で受講する「日欧比較文学論」の授業を受けて、三年前期に本ゼミで関連テーマの研究、発表を行います。さらにこの関連テーマで卒業論文の作成を目指す学生は、三年生後期の卒業研究準備演習へとつなげていきます。	特に掲げません。	0.2	0.2	0.5	0.1

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K560260	中国文化論演習	本授業は「中国文化論」の既習者を対象としたもので、受講者各自の調査・研究に基づき、中国文化、及びその背景となっている中国社会についてより深く知見を得ることを目的とします。このため、受講者には自己の興味に則してテーマを設定してもらい、発表してもらいます。また、中国本土にとどまらず、台湾・香港・シンガポールなど、華人社会やその文化も対象とします。	<p>(A) 知識・理解：国境を越えた社会の諸問題を、分野横断的に理解し、関連する基本的な知識を身につけ、それを土台にしてさらに自ら選択した専門的テーマに関する、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識を有する。 →「中国文化論」を履修することにより得られた中国社会に関する問題点の中から、関心を絞り込ませ、専門的テーマに関する、地域的または分野的に特化・深化した知識・認識をを獲得させる。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・社会の諸問題を比較し、実証的かつ合理的に考察することができる。 →各自の興味をもつ分野に関する先行研究の整理・考察、及び資料の批判的読解に関する能力を身につける。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な文献の読解や実地調査によって得られた知識や情報を主体的かつ批判的に分析・総合し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 →各自の興味をもつ分野に関する専門的な学術情報に関する成果及びその基礎となる資料の収集に関する基礎的情報を獲得させる。また、調査した内容を的確な方法を用いて報告する能力を身につけ、かつ、自己の報告に加えられた意見を客観的、合理的に整理し、自らの今後の報告に有機的に結びつけることができるようになる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動することができる。 →自己の個人的な関心と研究上の意義、及び社会的、文化的な意義、及び韓国の特質を日本など他文化との比較を通して深めます。</p>	<p>1. 卒業論文の作成に向けて自己の関心を絞り込む。</p> <p>2. 関心のあるテーマに関する先行研究の収集能力を身につける。</p> <p>3. 先行研究の整理、及び批判的読解に関する能力を身につける。</p> <p>4. 自己の調査内容を的確な方法を用いて報告する能力を身につける。</p> <p>5. 自己の報告に加えられた意見を客観的、合理的に整理し、自らの今後の報告に有機的に結びつけることができる。</p>	0.3	0.3	0.2	0.2
K560261	韓国文化論演習	「韓国文化論」を通じて知り得た（あるいは発見した）韓国と韓国人の文化や社会、歴史などへの知識を深め、韓国人の文化や社会について、そしていかなるもの成り立ちか、あるいは成り立ちようとしているのかについて各自分析を行います。	韓国文化の特質を日本など他文化との比較を通して深めます。	文献研究やフィールドワーク調査を通じて調べたものを説明する能力と、他者の書いた論文や文庫、あるいは他者の発表を批判的にとらえる習慣・態度を養います。	0.3	0.3	0.2	0.2
K560291	アメリカ文化論演習	米国の文化・歴史についての専門書を輪読する。担当者による発表に基づいて授業を進める。	米国の文化・歴史を深く理解し考察することによって、異文化への理解力や分析力を見につける。	問題となる事象について積極的に調査する主体的な学習態度を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K560292	翻訳文学論演習	How do we construct identity? What is the nature of culture and what is ideology? How do we position ourselves as subjects amidst contending notions and expectations of identity across cultures? For the duration of this course we will be immersed in questions of identity, particularly in our encounter with culture (cultural studies.) Through the process of reading and writing we will be developing our critical thinking skills to work through these questions and to develop those ideas into our own research projects.	Critical thinking through constructions of identity in the context of culture and culture studies is the focus of this course in preparing students to assume a global perspective while continuing to maintain productive local and regional relationships.	This course is designed to get students to engage in culture primarily through media and the arts. We are meeting in the Image Lab in order to engage visually with our materials. Final projects will consist in a photographic essay.	0.1	0.3	0.2	0.4
K560293	グローバル化と外国人児童生徒教育	授業では、①外国人児童生徒教育の意義②背景③現状④論点について議論を行う。	教職に関する共通の・基礎的内容の学習をふまへ、現代的教育課題に的確に対応する為の発展的内容であるが、国際的に活動する人事者の開発	・外国人児童生徒教育の現状と課題が分かる。 ・外国人児童生徒教育問題の論点が見える。	0.8	0.0	0.0	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にあさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K560294	移民と多文化教育	本講義では、異なる民族や文化背景を持つ人々が共に暮らす社会のあり方と、その実現を確固たるものにするための教育の有り方について探求する。まず、「人の移動」に焦点をあて、世界の移民の歴史を振り返る。次に、人の移動がもたらすグローバリゼーション現象について考える。具体的には、グローバリゼーションが、世界中の人々の相互依存関係がより強まることを意味するとして、各国政府の政策決定に与える影響について分析するとともに、各国の政治的・経済的・文化的相違がその国のグローバリゼーションにどう反映されているかについて探求する。最後に、教育がこのグローバリゼーション現象にどのような役割を果たすかについて考察する。	「国際化社会に柔軟に対処し問題解決に積極的に当たれる人材の養成」という国際学部の教育理念に沿って、国際社会に対する理解を深めるための科目として開講する。	国家、民族、社会、文化、教育などについて複眼的なもの見方や論理的思考能力を養成することを目指す。	0.2	0.3	0.2	0.3
K599020	卒業研究（市川裕見子）	各学生が研究テーマにもとづいて発表をし、それについて、ディスカッション、アドバイスをを行う。	時間軸、空間軸ともに広いパースペクティブの中で、文化、文学、芸術について深い考察を行う。	各学生の選択したテーマについて、探求、研究を行い、卒業論文を書き上げる。	0.2	0.2	0.5	0.1
K599030	卒業研究（梅木 由美子）	学生の研究テーマに応じて調査・研究・論文作成について助言・指導を行う。	日本語教育は国際社会や国内の社会状況と密接に関わっており、本授業は国際学養成の一翼を担うものである。	学生の研究テーマに応じて調査・研究・論文作成について助言・指導を行い、卒業論文を完成させる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599060	卒業研究（柄木田 康之）	各自の関心に応じて第三世界を中心としたグローバル化と地域社会の対応に関する文献、調査研究を立案実施する。	第三世界を中心に、グローバル化と地域社会の対応に関するトピックを選択し、文献・調査研究を立案実施する。	各自の関心に応じて第三世界を中心としたグローバル化と地域社会の対応に関する文献、調査研究を立案実施する。	0.2	0.2	0.3	0.2
K599110	卒業研究（佐々木 一隆）	読書会で関連文献を読み、定期的に卒論の進捗状況を報告してもらいながら、卒業論文作成の指導を各学生のテーマと方法論に応じて進めていきます。	言語研究を通じた4年間の学習と研究の総仕上げと位置づけられる。	言語研究に関する知識・思考・技能・意欲の4つを総動員して、学術的な価値のある卒業論文を完成させる。	0.3	0.2	0.3	0.2
K599130	卒業研究（丁 貴連）	卒業準備演習で行った課題を中心に卒業論文の作成を行います。	韓国の文化と社会の特質を明らかにすることができるテーマを見つけ、その分析を行います。	韓国の文化と社会の特質を明らかにすることができるテーマを見つけ、その分析を行います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599140	卒業研究（中村 真）	この授業では、対人コミュニケーションに関係した実験や調査などの研究を自ら計画、実施し、分析して結果をまとめる作業を行います。	・自らの手で実際に対人コミュニケーションに関する研究を行うことにより、科学的で実証的な思考・判断力を養い、研究計画の知識を深める。(B,C) ・科学的、実証的に研究を実施する技能を発展させる。(C)	・自らの手で実際に対人コミュニケーションに関する研究を行うことにより、研究計画の知識を深める。 ・科学的、実証的に研究を実施する技能を発展させる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599150	卒業研究（米山 正文）	米国文化について各自がテーマを選び、調査研究を行う。	文化研究により米国社会の諸問題を考察し、かつ主体的に分析する能力を養う。	米国文化についての調査・研究を卒業論文としてまとめる。	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599180	卒業研究（松金 公正）	卒業論文作成にかかる研究指導を行います。	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>→「卒業演習準備演習」を踏まえ、ディシプリンを踏まえた上で、中国の文化領域に関する知識・認識を獲得する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>→中国における文化の様相に対し、他地域との比較、異なる時代との比較といった相対的な視点をもちつつ、実証的かつ想像力豊かな考察を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>→必要な外国語や情報科学に習熟した上で、専門研究書等の講読において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができ、専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、自己の定めたディシプリンに基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、的確な方法を用い、説得的に報告し、かつ建設的で生産的な議論を行うことができる。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象</p>	<p>1. 的確、かつ網羅的に先行研究及び資料収集を行う。</p> <p>2. 先行研究の整理を踏まえ、合理的に課題設定を行う。</p> <p>3. 資料に対し、客観的な分析を行う。</p> <p>4. 分析結果を合理的かつ説得的な論理で記述する。</p> <p>5. 卒業論文における課題、及び今後の展開を理解する。</p> <p>6. 執筆にあたっての倫理的な常識、及びマナーを遵守する。</p>	0.2	0.3	0.3	0.2
K599190	卒業研究（アンドリュウ ライマン）	This course introduces researchable themes as well as skills for investigation of social sciences such as critical thinking, ethnography, fieldwork and academic writing.	The focus of this course is to allow students to further develop their interests in comparative culture studies by conducting comprehensive literature reviews of significant writing in various fields of interest.	Upon completion of this course, students should have produced a critical analysis of a researchable topic of interest, a review of literature in their chosen field, a research proposal including an introduction to their thesis as well as a working outline. All writing in this course must follow APA guidelines and meet basic requirements of Academic writing	0.2	0.3	0.3	0.2
K599200	卒業研究（松井 貴子）	卒業研究を行うために必要なことを学び、実践して、卒業研究を進める。	専門性のある読解力、国際的な視野からの思考力、読者を意識した表現力を身につけることにつながる。	研究テーマに関する知識を深め、資料を読解し考察する力を高める。自分の考えと他人の考えを明確に区別して論述することを身につけ、論文を完成する。	0.5	0.0	0.5	0.0
K599210	卒業研究（鎌田 美千子）	各自が研究課題を設定し、文献講読、調査分析、考察等を行い、卒業論文を執筆する。	自ら設定した研究課題への実証的な分析・考察を通して論理的に思考し、論述する。	自ら研究課題を設定し、その研究成果を卒業論文としてまとめる。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599220	卒業研究（高山 道代）	各自の関心に応じて日本語の諸現象について調査、分析をおこない、考察内容をまとめて卒業論文を作成する。	学習・教育目標のすべての項目に関連する。	1 これまでに身につけた日本語学に関する知識を用いて、自らたてた研究課題に生かす。2 調査、分析をおこない、考察内容について論理的に文章化し、卒業論文としてまとめる。	0.2	0.3	0.3	0.2

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599230	卒業研究（田口 卓臣）		(A) フランス語文化圏に関する専門的な文献の渉猟を通して得た無数の知識を総合的に理解する。(B) 自ら設定した課題について、独自の判断力を養う。(C) 自ら設定した課題について、自らの考えを、説得的に他者に伝える表現力を身に付ける。(D) 他人の言葉を鵝呑みにしない自学自習の訓練を通して、教育の究極目標としての「自己教育」「自己鍛錬」の精神・態度を身に付ける。		0.2	0.3	0.5	0.0
K599240	卒業研究（湯澤 伸夫）	卒業研究準備演習に引き続き、発表、討論、実験などを通して、卒業論文を作成する。	専門文献の読解と実験を通し、発表と討論により専門知識を深め、論文としてまとめる。	卒業論文を完成させること。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599270	卒業研究（大野育子）	表象文化論、文学領域の卒業研究を行う。論文執筆とそのための考察、分析の方法を具体的に学ぶ。	(A) 表象文化論の研究において必要な基礎知識として、諸理論や概念を文献の講読を通じて学ぶ。(B) 学んだ理論を用いて、自ら表象を分析する試みを行う。(C) レポートや発表を通じて、学んだことを研究を通じて統合しつつ表現力を養う。(D) 表象について、理論等を援用しつつ、積極的に考察する態度を養う。	資料収集、構成、執筆などの卒業研究の作業を進めながら、自らのテーマに向き合い、関心、疑問を深く掘り下げ、論考の形で完成させることを目指す。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599280	卒業研究（出羽尚）	卒業論文を執筆するための準備を行う。具体的には、調査を行うための具体的な方法を教員が提示し、それを受講生が実践し成果を報告する訓練を繰り返す。併せて、研究に必要な英文の講読を行う。見学調査を複数回行う。	(B), (C)および(D)と関連している	卒業論文を完成させる。	0.0	0.3	0.3	0.4
K599501	卒業研究準備演習（柄木田康之）	民族誌演習に引き続いて、第三世界の社会変動に関連する諸問題を検討します。	第三世界を中心に、グローバル化と地域社会の対応に関するトピックを選択し、文献・調査研究を立案実施する。	この授業では植民地主義、ジェンダー、エスニシティ、地域共同体と世界システムの接合等の今日的テーマを選択し、各自文献・フィールド調査を行い、問題意識を発展させることを目標とします。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599507	卒業研究準備演習（米山正文）	卒業研究の準備段階として、研究計画を立てる。	文化事象も背後の社会事象への思考力・分析力を身につける。	4年次に卒業研究を遂行するうえで必要な知識、技能、態度を身につける。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599508	卒業研究準備演習（丁 貴連）	「韓国文化論演習」で行った発表内容を深めることによって、卒業論文の作成に向けての足掛を作ります。	韓国文化の特徴を日本など他文化との比較を通じて深めます。	テーマと関連する文献を見つけ、それらを読み解く力を養います。	0.2	0.2	0.3	0.3
K599509	卒業研究準備演習（市川裕見子）	4年次の卒業論文作成に向けて、その準備を行います。	3年次前期開講の「日欧比較文学論演習」をふまえて行います	卒業論文のテーマの設定 資料、文献の蒐集および読解 個別テーマについての口頭発表、論文作成	0.2	0.2	0.5	0.1
K599511	卒業研究準備演習（アンドリュウ ライマン）	Thesis Development Research Methods Hypothesis Development and Analysis Critical Analysis and Literature Review Writing, critiquing and revising rough drafts Using References	The focus of this guided research course is to help students develop their interests in culture studies for the purpose of engaging in unique and original research.	After completing this course students should have been able to complete a comprehensive body of research writing in English on a topic of interest and relevance to the field of Comparative Culture Studies. Students should also be able to conduct literature reviews and be familiar with the protocols of academic writing.	0.2	0.3	0.3	0.2
K599513	卒業研究準備演習（中村 真）	対人コミュニケーションに関する卒業研究を行うための準備をするため、先行研究の検討とまとめ、研究方法の立案、分析方法の検討などを行います。	・対人コミュニケーション論、対人コミュニケーション論実験で学んだことを踏まえて、卒業研究につながる具体的な研究を、自分自身で計画できる知識と技能を習得する。(B, C)	・対人コミュニケーション論、対人コミュニケーション論実験で学んだことを踏まえて、卒業研究につながる具体的な研究を、自分自身で計画できる知識と技能を習得する。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599515	卒業研究準備演習（松井貴子）	卒業研究を行うために必要なことを学び、実践して、卒業研究の概略を構築する。	専門性のある読解力、国際的な視野からの思考力、読者を意識した表現力を身につけることにつながる。	研究テーマに関する基本的な知識を得て、資料を読解し考察する基礎力を養う。自分の考えと他人の考えを明確に区別して論述することを身につけ、論文作成を自発的に進められるようにする。	0.5	0.0	0.5	0.0

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	---

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599516	卒業研究準備演習（高山道代）	日本語学に関する専門的な文献を読むことをとおして卒業研究をおこなうために必要な知識や調査方法を身につけて課題の設定をおこなう。また、研究の概要をまとめるとともに具体的なすすめかたについて計画をたて、執筆の準備をおこなう。	日本語学に関する知識を用いながら卒業研究の課題設定をおこなう。また、研究計画をたて、執筆の準備をおこなう。学習・教育目標のうち、特に（B）（C）に深く関わる。	・卒業研究の課題を設定し、具体的な研究計画をたてる。 ・研究課題に沿って日本語学の専門的な文献を読み、的確な理解をもとに問題点を整理する力を養う。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599517	卒業研究準備演習（松金公正）	次年度に同教員の指導の下、卒業研究を行う予定の学生を対象として、卒業論文作成にかかる準備を行います。	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。 →「中国文化論演習」での報告を踏まえ、自己の関心をさらに絞り込むとともに、いかなるディシプリンで研究を進めるのか、どの学術的分野に特化した知識・認識を獲得するのかについての方向性を定める。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。 →各自の興味をもつ分野に関する先行研究の整理・考察、及び資料の批判的読解に関する基礎的知識を拡充により、相対的な視点をもちつつ、科学的かつ実証的な分析を行う基礎的視角を養う。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にふさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。 →各自の興味をもつ分野に関する専門的な学術情報に関する成果及びその基礎となる資料の収集に関する基礎的情報を獲得させる。また、調査した内容を的確な方法を用いて報告するためのプレゼンテーション、及び文章化の能力に関する訓練を行う。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>	<p>1. 卒業論文の作成に向けて、「中国文化論演習」での報告を踏まえ、自己の関心をさらに絞り込むとともに、いかなるディシプリンで研究を進めるのかについて、方向性を定める。</p> <p>2. 研究テーマに関する資料、及び先行研究の収集能力を高める。</p> <p>3. 先行研究を整理することにより、研究テーマに関する問題点を発掘する。</p> <p>4. 資料の批判的読解に関する基礎的知識を拡充する。</p> <p>5. 自己の研究内容を的確な方法を用いて報告するためプレゼンテーション能力を高める。</p> <p>6. 自己の報告に加えられた意見を客観的、合理的に整理し、自らの今後の報告に有機的に結びつけることができる。</p> <p>7. 他者の研究報告に対し、積極的に客観的、建設的意見を述べることができる。</p>	0.2	0.3	0.3	0.2
K599518	卒業研究準備演習（鎌田美千子）	4年次での卒業研究を行うために必要な知識と研究方法を学ぶ。	卒業研究を行うための準備段階として位置づけられる。	自ら研究課題と研究計画を立てることができるようになることを目指す。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599530	卒業研究準備演習（佐々木一隆）	卒業研究への準備として、卒論のテーマを検討し、一次資料の収集法や理論的枠組を学び、先行研究にも触れて、4年次の卒業論文作成へと繋げていきます。	言語学演習から卒業研究へと円滑に進むための仲立ちの科目として位置づけられています。	卒業研究準備演習は、卒業研究に必要な基礎知識や研究方法・心構えを学び、卒業研究の準備態勢を整えるために開講されるものです。この授業では、実際に卒業研究の指導を受けている4年生の様子を見て、4年生と情報交換もしながら、次年度の卒業研究への準備を行います。	0.3	0.2	0.3	0.2
K599531	卒業研究準備演習（田口卓臣）	この授業では、フランス文化論演習の既習者を対象として、卒業研究の準備を行なうことを目的とします。いよいよ卒業論文のテーマを決めるとともに、プランをたて、資料を集めて分析する方法など、論文を書くに当たって必要なノウハウを実践的な訓練を通して指導します。	<p>(A) フランス語文化圏に関する専門的な文献の内容に関する理解を深め、自らの課題に関連する基礎知識を身に付ける。</p> <p>(B) フランス語文化圏に関する先行研究に関する自らの価値判断とその根拠に関する考察力を養う。</p> <p>(C) フランス語圏文化に関する自らの課題設定に即して、「フランス文化論演習」で学んだ調査・発表・分析の基礎技術を応用する。</p> <p>(D) フランス語圏文化の価値観について、自ら積極的に調査・理解・分析する自学自習の態度を実践する。</p>	フランス語文化圏についての専門的な文献の内容に関する理解を深め、自らの課題に関連する基礎知識を身につけるとともに、先行研究に関する自らの価値判断とその根拠をめぐめる考察力を養います。自らの課題設定に即して、フランス文化論演習で学んだ調査・発表・分析の基礎技術を応用し、積極的に調査・理解・分析する自学自習の態度を実践できるようにします。	0.2	0.3	0.5	0
K599532	卒業研究準備演習（湯澤 伸夫）	卒業論文が独力で書けるように、卒業論文の書き方について理解し、自分の卒業論文の骨子を定めること。	専門文献の読解と実験を通し、発表と討論により専門知識を深める。	授業を通して得た知識をもとに、卒業論文の構想をまとめ発表すること。	0.2	0.2	0.3	0.3

国際学部・国際文化学科 カリキュラムマップ

学習・教育目標	<p>(A) 知識・理解：世界における文化のありようを歴史的（時間軸）・地理的（空間軸）観点から、分野横断的に理解し、関連した基本的な知識を身につけた上で、それを土台にしてさらに地域的または分野的に特化した文化領域についての深化した知識・認識を有する。</p> <p>(B) 思考・判断：異なる時代・地域・文化の様相に対し、比較考察的で相対的な視点をもちつつ、科学的・実証的であると同時に、想像力・感受性豊かな考察・評価を行うことができる。</p> <p>(C) 技能・表現：講義、講演の聴講、また専門研究書等の講読および読書において、その要点を正確に理解、把握し、全体的にまとめることができる。専門的な研究に際し、研究課題を設定して自ら適切に資料・データ・文献を収集し、内容にあさわしい方法論に基づいて主体的かつ批判的にこれらを分析し、論理的な考察を加えてこれを文章化することができる。またその内容を、口頭で発表し、かつ生産的な議論を行うことができる。上記の事柄に必要な外国語や情報科学に習熟する。</p> <p>(D) 関心・意欲・態度：人間の営みに関わるあらゆる事象・現象に対して積極的に目を開き、自分の能力・志向にかなった領域について意欲的な探求を通して、主体的に関わることができる。</p>
---------	--

時間割コード	授業科目名	授業内容	学習・教育目標との関連	授業の到達目標	学習・教育目標の項目記号			
					学習・教育目標の項目との関連を0.0, 0.1, 0.2, …, 0.9, 1.0の数値で表す			
					(A)	(B)	(C)	(D)
K599533	卒業研究準備演習（モリソン パーバ）	How do we make meaning? How do cultures construct meaning through the production and consumption of images? How are these images regulated in the construction of identity? Close readings of cultural studies texts, discussion and student projects.	Critical thinking through constructions of identity in the context of culture studies is the focus of this course in preparing students to assume a global perspective while continuing to maintain productive local and regional relationships.	To ground students firmly in the practice of cultural studies (カルチュラル・スタディーズ) so that each individual will be confident in their abilities to pursue their own lines of inquiry involving issues pertaining to identity, gender, media, image and/or popular culture.	0.2	0.2	0.3	0.3
K599534	卒業研究準備演習（大野斉子）	表象文化論、文学領域の研究論文を精読し、論文の書き方、準備の仕方についても学ぶ。	(A) 表象文化論の研究において必要な基礎知識として、諸理論や概念を文献の講読を通じて学ぶ。(B) 学んだ理論を用いて、自ら表象を分析する試みを行う。(C) レポートや発表を通じて、学んだことを研究を通じて統合しつつ表現力を養う。(D) 表象について、理論等を援用しつつ、積極的に考察する態度を養う。	研究論文の講読を行いつつ、自分の研究のテーマ、方法について考察を深めることを目指す。	0.2	0.3	0.3	0.2
K599536	卒業研究準備演習（出羽尚）	卒業論文を完成させるための準備を行う。具体的には、調査を行うための具体的な方法を教員が提示し、それを受講生が実践し成果を報告する訓練を繰り返す。併せて、研究に必要な英文の講読を行う。見学調査を複数回行う。	(B)、(C)および(D)と関連している	・卒業論文を完成させるために必要な準備の方法を身に付ける。 ・卒業論文のテーマを見つける。	0.0	0.3	0.3	0.4
K999991	国際キャリア開発	「国際キャリア開発」は、国際キャリア開発プログラムにおける「合宿セミナー」の一環として開講するものであり、学内外の講師によるテーマ別の分科会ごとに、ワークショップやディスカッションを取り入れた、2泊3日の合宿形式の集中授業です。	国際学部のディプロマ・ポリシーの「関心・意欲・態度」に沿って、以下の通り国際学部のキャリア教育の一環として行われます。 国際社会学科：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動する。	授業の目標は、以下の3つです。 ①「働くとは何か」について考える、②自分と地域社会や世界とのつながりを考える、③主体的に関わりたい問題や分野を見つけ、今後の学びの動機を考える。	0.1	0.3	0.3	0.3
K999992	国際キャリア実習	本実習は、「国際キャリア開発」の4つのテーマである国際ビジネス、国際協力・国際貢献、多文化共生と日本、異文化理解・コミュニケーションの分野で活躍することを目指して、国内および海外の企業・NGO・公的機関・地方自治体、国際機関などでインターンとして実習経験を積み、実務能力を高めます。インターン後はレポート提出を課します。	国際学部のディプロマ・ポリシーの「関心・意欲・態度」に沿って、以下の通り国際学部のキャリア教育の一環として行われます。国際的な視野を持った人材の養成に不可欠な仕事の知識を、現場の体験を通じて身につけます。 国際社会学科：自分たちとは異なる世界各地の社会問題に広く関心を持ちながら、自己の文化との相違を尊重して、社会の諸問題を解決するために、大学で培った知識や技能を用いて実践的に行動する。	本実習は、「国際キャリア開発」の①「働くとは何か」について考える(Grasp the image of “working in society with motivation”), ②自分と地域社会や世界とのつながりを考える(Provide opportunities to think about your roles in local and global societies), ③主体的に関わりたい問題や分野を見つけ、今後の学びの動機を考える(Find motivation to actively pursue your career)の3つの目的を達成させるために、現場体験、実習経験を積み、実務能力、企画力とコミュニケーション力を高めます。さらに、自分の関心分野や専門性をより明確にします。	0.0	0.2	0.4	0.4
K999995	※日研生特別演習 I	日本語・日本文化研修留学生を対象に1年間の研究成果を論文にまとめるための指導を行う授業である。研修期間の前半にあたる「I」では、研究テーマの確定に向けた指導を行う。	日本語・日本文化研修プログラムの目標は、研修留学生が、日本語能力のさらなる向上を図るとともに日本語や日本の文化についての専門的な知識と理解を深めることであり、この授業はこのプログラムの中心となる授業科目である。	日本語・日本文化研修プログラムの成果としての研修論文の完成に向けて研究テーマを絞り込んでいく。	0.2	0.3	0.3	0.2
K999996	※日研生特別演習 II	日本語・日本文化研修留学生を対象に1年間の研究成果を論文にまとめるための指導を行う授業である。研修期間の後半にあたる「II」では、論文の最終的な完成、また研修論文最終報告会に向けた指導を行う。	日本語・日本文化研修プログラムの目標は、研修留学生が、日本語能力のさらなる向上を図るとともに日本語や日本の文化についての専門的な知識と理解を深めることであり、この授業はこのプログラムの中心となる授業科目である。	日本語・日本文化研修プログラムの成果としての最終発表会、および研修論文の完成を目指す	0.2	0.3	0.3	0.2